

# 活動報告

## 日本語研修コース

深見兼孝

### 修了者

第54期生名簿（2012年4月～2012年9月）[9名]

氏名	呼び名	国籍	専攻	大学
Tariq Muhammad Rizwan	リズワン	パキスタン	電気工学	広島大学
Arafiles Kim Hazel Valenzuela	キム	フィリピン	微生物学	広島大学
Keophatsada Mayouly	マユリー	ラオス	教育行政学	広島大学
Olusegun Oluwatoyin Temitope	オルワトイン	ナイジェリア	流体工学	広島大学
Kaonga Chikumbusko Chiziwa	カオンガ	マラウイ	環境科学	広島大学
Nhavotso Francisco Samuel	フランシスコ	モザンビーク	土木工学	広島大学
Massango Herieta	エリエタ	モザンビーク	教育学	広島大学
Pus Andrew	アンドリュウ	パプアニューギニア	健康管理学	広島大学
Kayode Ifeoluwa Bolanle	イフォルワ	ナイジェリア	生態学	広島市立大学

第55期生名簿（2012年10月～2013年3月）[16名]

氏名	呼び名	国籍	専攻	大学
Pech Seakleng	ペッチ	カンボジア	社会科教育	広島大学
Cho Hyoeun	チョー	韓国	教育開発	広島大学
Vivien	ビビエン	インドネシア	比較教育	広島大学
Sagala Pehulysa	ペフリサ	インドネシア	技術・情報教育	広島大学
Nisa Maulia	ニサ	インドネシア	理科教育	広島大学
Budi Harjo	ブディ	インドネシア	日本語教育	広島大学
U-Pitak Pornpan	ユーピタク	タイ	言語教育	広島大学
Mathawee Aswanee	マサウィー	タイ	言語教育	広島大学
Myoung Nosu	ミョン	韓国	初等教育	広島大学
Biswas Jagazziban	ビスワス	バングラデシュ	幼児教育	広島大学
Jia Wen Sheng	ジア	中国	数学教育	広島大学
Suwanpimolkul Peerut	ピールット	タイ	化学工学	広島大学
Wiriyaswat Chaichan	ウィリアスワット	タイ	輸送・環境システム工学	広島大学
Navamani Isaivathi	イサイ	インド	情報工学	広島大学
Ahmad Belal Bashir	ベラル	シリア	システムサイバネティクス	広島大学
Yuan Yi	エンイー	中国	情報工学	広島大学

## 講師一覧

第54期(2012年4月～2012年9月)

専任 中川正弘 中矢礼美 深見兼孝

非常勤 伊ヶ崎泰枝 今石正人 浮田三郎 後藤美知子 佐藤道雄 松村一徳 渡辺久美

第55期(2012年10月～2013年3月)

専任 中川正弘 中矢礼美 深見兼孝

非常勤 伊ヶ崎泰枝 今石正人 浮田三郎 尾形典子 後藤美知子 佐藤道雄 松村一徳

### 第54期(2012年4月～2012年9月)予定表

	行事/試験等	見学(総合演習)	備考
4/5 - 4/13	4/5(木) 11:00 オリエンテーション(K308) 4/9(月) 11:30 開講式(学生会館レセプションホール)		4/6(金) 16:20 留学生全学オリエンテーション(K104) 4/12(木) 14:35 図書館オリエンテーション(中央図書館ライブラリーホール)
4/16 - 4/20			
4/23 - 4/27		4/27(金) 広島市	4/26(木) 10:30 情報セキュリティー・コンプライアンス講習会(学生会館レセプションホール) 4/27(金) 17:00 ホストファミリー対面式
4/30 - 5/4			4/30(月) 昭和の日(祝日) 5/3(木) 憲法記念日(祝日) 5/4(金) みどりの日(祝日) 5/5(土) こどもの日(祝日)
5/7 - 5/11			
5/14 - 5/18			
5/21 - 5/25		5/25(金) 宮島	
5/28 - 6/1			
6/4 - 6/8	6/7(木) 中間テスト		
6/11 - 6/15			
6/18 - 6/22			
6/25 - 6/29			
7/2 - 7/6			
7/9 - 7/13			
7/16 - 7/20		7/20(金) マツダ	7/16(月) 海の日(祝日)
7/23 - 7/27			
7/30 - 7/31	7/31(火) 期末テスト		
8/1 - 8/31	夏休み		
9/3 - 9/7	9/3(月)～ 9/7(金) 特別講義		
9/10	9/10(月) 13:30 研修成果発表会・修了式		

第 55 期(2012 年 10 月～2013 年 3 月) 予定表

	行事／試験等	見学（総合演習）	備考
10/5	10/5(金) 11:00 オリエンテーション(K308)		10/5(金) 16:20 全学新留学生オリエンテーション(K201)
10/8 - 10/12	10/9(火) 11:30 開講式(学生会館レセプションホール)		10/8(月) 体育の日(祝日)
10/15- 10/19			
10/22 - 10/26		10/26(金) 広島市	10/26(金) 17:30 ホストファミリー対面式
10/29 - 11/2			11/3(土) 文化の日(祝日)
11/5 - 11/9			
11/12 - 11/16			
11/19 - 11/23			11/23(金) 勤労感謝の日(祝日)
11/26 - 11/30		11/30(金) 宮島	
12/3 - 12/7	12/6(木) 中間テスト		
12/10 - 12/14			
12/17 - 12/21			
12/24 - 1/7	冬休み		12/24(月) 天皇誕生日振替(祝日) 1/1(火) 元日(祝日)
1/8 - 1/11			
1/14 - 1/18			1/14(月) 成人の日(祝日)
1/21 - 1/25		1/25(金) マツダ	
1/28 - 2/1			
2/4 - 2/8			
2/11 - 2/15			2/11(月) 建国記念の日(祝日)
2/18 - 2/22	2/21(木) 期末テスト		
2/25 - 3/1	2/25(月)～3/1(金) 特別講義		
3/4	3/4(月) 修了式・研修成果発表会		

**日本語・日本事情**  
(2012年4月～2013年3月)

田村泰男

1. 授業科目一覧

・東広島キャンパス

授 業 科 目	開 設 単 位 数	学 期 別 週 授 業 時 数		備 考
		前 期	後 期	
総合日本語初級ⅠA	1・1	2	2	広島大学外国人留学生のための授業である。
総合日本語初級ⅠB	1・1	2	2	
総合日本語初級ⅠC	1・1	2	2	
総合日本語初級ⅠD	1・1	2	2	
総合日本語初級ⅡA	1・1	2	2	
総合日本語初級ⅡB	1・1	2	2	
総合日本語初級ⅡC	1・1	2	2	
総合日本語中級ⅠA	1	2		
総合日本語中級ⅠB	1	2		
総合日本語中級ⅠC	1	2		
総合日本語中級ⅠD	1		2	
総合日本語中級ⅠE	1		2	
総合日本語中級ⅠF	1		2	
総合日本語中級ⅡA	1	2		
総合日本語中級ⅡB	1	2		
総合日本語中級ⅡC	1	2		
総合日本語中級ⅡD	1		2	
総合日本語中級ⅡE	1		2	
総合日本語中級ⅡF	1		2	

日本の教育と文化A	1	2	
日本の教育と文化B	1		2
日本語聴解特別演習A	1	2	
日本語聴解特別演習B	1		2
日本語分析特別演習A	1	2	
日本語分析特別演習B	1		2
日本語表現特別演習A	1	2	
日本語表現特別演習B	1		2
日本語古文特別演習A	1	2	
日本語古文特別演習B	1		2
日本語語彙特別演習A	1	2	
日本語語彙特別演習B	1		2
映像日本語特別演習A	1	2	
映像日本語特別演習B	1		2
論文作成法A	1	2	
論文作成法B	1		2
日本の社会・文化A	1	2	
日本の社会・文化B	1		2
日本語・日本文化特別研究ⅠA	4		4
日本語・日本文化特別研究ⅠB	4		4
日本語・日本文化特別研究ⅠC	4		4
日本語・日本文化特別研究ⅡA	4	4	
日本語・日本文化特別研究ⅡB	4	4	
日本語・日本文化特別研究ⅡC	4	4	

・霞キャンパス

授 業 科 目	開 設 単 位 数	学 期 別 週 授 業 時 数		備 考
		前 期	後 期	
総合日本語初級ⅠA	1・1	2	2	広島大学外国人留学生のための授業である。
総合日本語初級ⅠB	1・1	2	2	
総合日本語初級ⅡA	1・1	2	2	

## 2. 授業内容

(東広島キャンパス)

### ・レベル1

授業科目	総合日本語初級ⅠA・ⅠB・ⅠC・ⅠD
担当教官	石原淳也・深見兼孝・多和田眞一郎・山中康子・渡辺久美
目 標	かな及び基本的な漢字の読み方・書き方、初歩的な文法を習得させる。
内 容	<p>第1週- 第8週 ひらがな、カタカナと日本語の発音、あいさつ、数詞、名詞文、指示詞、時間表現、自動詞文、移動の動詞、他動詞文、斜格助詞、形容詞、目的語+が、存在表現、数量詞、比較、中間試験</p> <p>第9週- 第15週 要求・希望、テ形、許可・禁止、進行、連続した行為、ナイ形、禁止、義務、第十八課 辞書形、第十九課 普通形過去、引用、関係節、時を表す従属節、授受動詞、条件節、期末試験</p>
テキスト	「みんなの日本語初級Ⅰ 本冊」(スリーエーネットワーク)
成績評価の方法	出席・試験・宿題

### ・レベル2

授業科目	総合日本語初級ⅡA・ⅡB・ⅡC
担当教官	田村泰男・中川正弘・下村真理子
目 標	初級後半レベルの基礎的な語彙・文型・表現を学習し、併せて種々の場面に応じた実用的な日本語表現能力を習得させる。
内 容	<p>第1週- 第5週 依頼表現、可能表現、継続・習慣の表現、理由の表現、意志・予定の表現、完了表現、自動詞/他動詞、推量表現、忠告の表現、命令・禁止表現、テスト(1)</p> <p>第6週- 第10週 時間表現、付帯状況の表現、条件表現、目的・目標の表現、状態変化の表現、受身表現、形式名詞、理由・原因の表現、疑問詞疑問文、試行の表現、テスト(2)</p> <p>第11週- 第15週 授受表現、目的の表現、様態の表現、移動の表現、難易表現、伝聞表現、使役表現、敬語、テスト(3)</p>
テキスト	「みんなの日本語初級Ⅱ 本冊」(スリーエーネットワーク)
成績評価の方法	出席・試験・宿題



・レベル 3

授業科目	総合日本語中級 I A・I B
担当教官	浮田三郎・渡部浩見
目 標	中級レベルの長文を読み、内容を理解する能力を身に付ける。今までに学んだ基本的な表現を使って、日本語で議論をしたり自分の意見を表現できるようにする。
内 容	その課に出てくる文型、語彙等について解説を加えた後、長文を読み内容を理解したうえで、長文の内容についての質問に答える。適宜、トピックに関連した日本文化についての解説を加える。 本授業では次のトピックを扱う： クラスメート、手紙、誕生日、日曜日、結婚式、お花見、アルバイト、家族、宇宙、留学生の生活、小旅行、犬好き、風呂屋、東京での生活、曜日、正月、花火、体育の日、かまくら、すもう、駅の売店、日本語のあいまいさ、ロボット、温泉と火山
テキスト	「日本語中級読解入門」(アルク)
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	総合日本語中級 I C
担当教官	坂田光美
目 標	さまざまな形式の文章表現を耳から理解できるようになる。
内 容	1) トピックに関するCDを聞いて質問に答え、内容を理解する。 2) スクリプトを使用した様々な練習をすることによって、総合的な日本語力を身につける。 3) 内容について話し合ったり、要約文を書いたりする。 本授業では次のトピックを扱う： いただきます、川を渡る、車は左、人は右？、千羽鶴、合格は誰のおかげ？、時差ぼけ、小判がこわい、道路からメロディー、カラオケ発明者にノーベル賞？、砂糖の消費量、盆栽、駅伝、波力発電、河童、「もったいない」を国際語に！、思いがけない援助、新幹線の顔、ビルの地下の野菜畑、イルカは頭がいい？、留学生文学賞、菜の花プロジェクト、今日は何色のスーツですか、缶コーヒーの値段、あがらないためには、国際宇宙ステーション
テキスト	「新・毎日の聞き取り50日 vol.2」(凡人社)
成績評価の方法	出席状況と試験および宿題による評価。

授業科目	総合日本語中級 I D・I E
担当教官	浮田三郎・渡部浩見
目 標	中級レベルの長い文章を読み、それが何を伝えようとしたものであるかを確実に読みとる読解力を身に付け、さらにその内容を的確に言語表現できる能力を養うことを目標とする。
内 容	その課に出てくる文型、語彙等について解説を加えた後、長文を読み内容を理解したうえで、長文の内容についての質問に答える。適宜、トピックに関連した日本文化についての解説を加える。 第1週～第7週 新宿、工場見学、方言、思い出の人形、日本間、青と緑、テスト 第8週～第15週 マンガ、志のままに、すし、河童、寄席、睡眠、テスト
テキスト	「日本語2ndステップ」(白帝社)
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	総合日本語中級 I F
担当教官	下村真理子
目 標	音声教材を用いて、一定の長さの説明文や解説文の聞き取り能力を養うとともに総合的な日本語能力を高める。
内 容	1) トピックに関するCDを聞いて質問に答え、内容を理解する。 2) スクリプトを使用した様々な練習をすることによって、総合的な日本語力を身につける。 3) 内容について話し合ったり、要約文を書いたりする。 本授業では次のトピックを扱う： もしもし、旗のデザイン、海からの便り、カラスのカー子ちゃん、たためるピアノ、日本人と果物、待つ時間・待たせる時間、震度3、世界の人口、牛井の作り方、ドライアイ、日本の地方都市、横断歩道、弁当の日、コンビニ図書館、右回りの時計、目にやさしい色、上手に泣いて、ストレス解消、阿波踊り、富士山が見えるところ、アニメ文化の輸出、十二支の話、東京を回る山手線、どんな結婚披露宴がいい？、通話をやめた若者
テキスト	「新・毎日の聞き取り50日 vol.1」(凡人社)
成績評価の方法	出席状況と平常点、および期末試験による総合評価。

・レベル4

授業科目	総合日本語中級ⅡA・ⅡB
担当教官	田村泰男・坂田光美
目 標	中級レベルの文法・語彙・表現の定着を図るとともに長文読解能力を養成する。
内 容	<p>トピックに基づいて書かれた日本語中級学習者用の読解教材を読み進みながら、中級レベルの文型・語彙・表現を学習する。</p> <p>授業では、特に次の語彙・表現の解説を行う。</p> <p>～という、～に基づく～、～と同時に、～による、～際、～にかけて、～さえ、～なんて、こと、～を問わず、～をめぐって、～ところ、～向き／～向け、～における、～上、～うえで、～なり、V たN、～という点、～にかかわる、～をもたらす、～に対して／～にとって、～ばかり／～だけ、～を通して／～を通じて、～ぶり、～とはいえ、～当たり、たとえ～も、～やら～やら、～に関する～、～限り、～がち、～っぱなし、～以上、～抜きの～、～おかげで／～せいで、～にもかかわらず、～につれて、～に例える、～に違いない、～得ない／～得る、～っぽい、～にしても、～つつ、～めく、～かのように、～結果、～に比べて、もの</p>
テキスト	「中級を学ぼう 日本語の文型と表現82」(スリーエネットワーク)
成績評価の方法	出席、試験、宿題

授業科目	総合日本語中級ⅡC
担当教官	山中康子
目 標	身近なトピックにより、日本に対する理解を深めるとともに、多様な場面や状況を理解し、語彙を増やす。聞き取りだけでなく、多角的な練習により、総合的な日本語の力を伸ばす。
内 容	<p>本授業では、次のようなトピックスを扱う：</p> <p>回転寿司、郵便局からのお知らせ、名前のない手紙、成績と朝ごはん、地震に強いビル、いちばん上の子、結婚相手、太鼓のひびき、睡眠不足、お菓子のおまけ、進化するロボット、人類はメン類、日本を知らない日本人、よみがえった日本の技術、若い登山家、変化する就職活動、三年寝太郎、屋上の緑化、英語力や資格は必要ですか、燃料電池自動車</p>
テキスト	「毎日の聞き取りplus40 下」(凡人社)
成績評価の方法	試験、出席、課題

授業科目	総合日本語中級ⅡD・ⅡE
担当教官	田村泰男・坂田光美
目 標	中級レベルの文法・語彙・表現の定着を図るとともに長文読解能力を養成する。
内 容	<p>トピックに基づいて書かれた日本語中級学習者用の読解教材を読み進みながら、中級レベルの文型・語彙・表現を学習し、部分作文によって新出項目の定着を図る。</p> <p>授業では、特に次の語彙・表現の解説を行う。</p> <p>～ながら、～まい、～わけだ、～でも、～ほど、～なら、～ても、～てくる、～てしまう、～ながら、～よう、～がる、～ことにする／なる、～とか～とか、～させる、～てたまらない、～たばかり、～ものだ、～てみる、～中、～し～し、～かもしれませんが、～つもり、～くらい、～なければならない、～まま、～ようとしなさい、～たものだ、～から～にかけて、～ものの、～やら～やら、～につれて、～ば～ほど、～として、～によって、～ところ、～にとって、～はずだ、～さえ、～うちに、～はずがない</p>
テキスト	「テーマ別中級から学ぶ日本語」(研究社)
成績評価の方法	出席、試験、宿題

授業科目	総合日本語中級ⅡF
担当教官	山中康子
目 標	身近なトピックにより、日本に対する理解を深めるとともに、多様な場面や状況を理解し、語彙を増やす。聞き取りだけでなく、多角的な練習により、総合的な日本語の力を伸ばす。
内 容	<p>教材を聴く前にまず、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) イラストによって、教材の内容を概観する。</li> <li>(2) 関連語彙や、背景となる知識を導入する。</li> <li>(3) 教材の内容に関する短い文章を読み、クイズに答える。</li> </ol> <p>教材を聴いた後</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(4) タスクに答える。</li> <li>(5) 話題に関連した補足説明を読み、知識を深める。</li> <li>(6) 語彙、表現の定着を図るために、口頭練習を行う。</li> <li>(7) 音声言語としての日本語についての理解を深める。</li> </ol>
テキスト	「毎日の聞き取りplus 40 上」(凡人社)
成績評価の方法	試験、出席、課題

授業科目	日本の教育と文化A
担当教官	中矢礼美
目 標	日本社会と文化を深く理解することを目的に、日本における子育て・学校教育・社会教育の歴史と現状から、日本社会の発展と課題、文化に与える影響を紹介し、学生は比較考察や議論を行う。
内 容	オリエンテーション(社会学的な見方)、日本の子育て文化(歴史・文化編)、日本の子育て政策と現状(社会編)、日本の学校教育の発展(江戸時代)、日本の学校教育の展開1(明治・大正期)、日本の学校教育の展開2(昭和期)、日本の学校教育の現在(平成)、日本の学校文化(規律文化)、日本の学校文化(和と輪と集団主義)、日本の学校文化(権威主義と民主主義)、日本の学校文化(いじめ問題)、日本の社会教育1(歴史編)、日本の社会教育2(公民館)、学生グループ討議・発表
テキスト	適宜配布する。
成績評価の方法	出席(欠席3回まで)、授業態度50%、毎回のコメント用紙20%、レポート30%

授業科目	日本の教育と文化B
担当教官	中矢礼美
目 標	日本社会と文化を深く理解することを目的に、日本における子育て・学校教育・社会教育の歴史と現状から、日本社会の発展と課題、文化に与える影響を紹介し、学生は比較考察や議論を行う。
内 容	オリエンテーション(社会学的な見方)、日本人のイニシエーション1(妊娠・出産・産後)、日本人のイニシエーション2(子ども期)、日本人のイニシエーション3(青年期)、日本人のイニシエーション4(成人期)、日本の学校におけるキャリア教育1(自己発見)、日本の学校におけるキャリア教育2(職業意識)、日本の学校におけるキャリア教育3(実習・進路選択)、日本の学校における伝統文化の継承日本の地域社会の仕組みと特徴①、日本の学校における伝統文化の継承、日本の学校における歴史教育、日本の学校における国際理解教育、日本の学校における言語教育、学生グループ討議・発表、学生グループ討議・発表
テキスト	事前に資料を配布します。
成績評価の方法	出席(欠席は3回まで)、授業態度30%、コメント用紙20%、レポート30%

・レベル5

授業科目	日本語聴解特別演習 A
担当教官	深見兼孝
目 標	現代日本のさまざまな問題を取り上げた時事エッセイの聴解能力を養い、併せてそれに特有の語彙・表現を学習する。
内 容	<p>次のような段階を踏んで、内容を理解する練習を行う。後にそれを文字化したものを読み、理解を補う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) キーワードの理解と聞き取り</li> <li>2) 概要の把握</li> <li>3) 細部の聞き取り</li> </ol> <p>さらに、重要語句の使い方について練習する。</p>
テキスト	市販の中・上級用教材の一部と付属のテープ。および担当者の自主教材。
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	日本語聴解特別演習 B
担当教官	深見兼孝
目 標	ニュースの聴解能力を養い、併せてそれに特有の語彙・表現を学習する。
内 容	<p>ニュースを聞き、次の段階を踏んでその内容を理解する練習を行う。また、スクリプトの完成を行うことによって、漢字、語彙、表現の使い方を学習する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) キーワードの理解と聞き取り</li> <li>2) 概要の聞き取り</li> <li>3) 細部の聞き取り</li> <li>4) ディクテーション</li> </ol>
テキスト	市販の中・上級用教材の一部と付属のテープ。および担当者の自主教材。
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	日本語分析特別演習 A
担当教官	中川正弘
目 標	日本語で文章を綴ることに慣れ、自分たち外国人の日本語を日本人の日本語と比較分析することで日本語の理解を深める。
内 容	自分の使う日本語をはっきりと目に見える形にするために、毎週日本語作文を提出してもらおう。その作文は自分の書いた文章と書き直しが客観的に対照しやすいようにワープロ編集をして返すので、自分の日本語の問題点を考える。授業ではそれらの日本語作文から間違っている文、あるいは何か問題がある文を例に選び、時には何通りもある書き直し方や関連するさまざまな文法、表現の例と比較しながら、日本人の日本語がどのような感覚、心理、考え方を土台としているかを分析し、さまざまな文体的事象について解説していく。前期は日本語への翻訳、要約を多く扱う。
テキスト	用例のプリントを毎回配布する。
成績評価の方法	提出作文、テスト

授業科目	日本語分析特別演習 B
担当教官	中川正弘
目 標	日本語で文章を綴ることに慣れ、自分たち外国人の日本語を日本人の日本語と比較分析することで日本語の理解を深める。
内 容	自分の使う日本語をはっきりと目に見える形にするために、毎週日本語作文を提出してもらおう。その作文は自分の書いた文章と書き直しが客観的に対照しやすいようにワープロ編集をして返すので、自分の日本語の問題点を考える。授業ではそれらの日本語作文から間違っている文、あるいは何か問題がある文を例に選び、時には何通りもある書き直し方や関連するさまざまな文法、表現の例と比較しながら、日本人の日本語がどのような感覚、心理、考え方を土台としているかを分析し、さまざまな文体的事象について解説していく。後期は報告文、説明文を多く扱う。
テキスト	用例のプリントを毎回配布する。
成績評価の方法	提出作文、テスト

授業科目	日本語表現特別演習 A
担当教官	浮田三郎
目 標	日本の諺を教材にして、時には世界各国の諺と対照比較し、日本語的な表現法、比喩表現の面白さ、日本的な考え方、日本の文化や風土などの理解を目指す。
内 容	日本の代表的な諺を、時には世界各国の諺と対照比較しながら、留学生達の意見を発表してもらい、ディスカッションする。日本語的な表現法を学習し、各々の諺が持っているテーマや特徴を、簡単なクイズ形式の設問を用いて、考えてみる機会を与える。  テーマ別には、以下に掲げる通りである。  1. 諺の表現法 2. 親と子 3. 夫婦 4. 恋愛 5. 油断と用心 6. 欲 7. 酒 8. 友 9. 秘密
テキスト	自主教材、金子武雄『日本の諺』（1982年）等
成績評価の方法	授業への出席状況とレポートによって評価する。

授業科目	日本語表現特別演習 B
担当教官	浮田三郎
目 標	日本の諺を教材にして、時には世界各国の諺と対照比較し、日本語的な表現法、比喩表現の面白さ、日本的な考え方、日本の文化や風土などの理解を目指す。
内 容	日本の代表的な諺を、時には世界各国の諺と対照比較しながら、留学生達の意見を発表してもらい、ディスカッションする。日本語的な表現法を学習し、各々の諺が持っているテーマや特徴を、簡単なクイズ形式の設問を用いて、考えてみる機会を与える。テーマ別には、以下に掲げる通りである。  1. 睡眠 2. 病気 3. 生死 4. 季節 5. 天候 6. 学者 7. 教育 8. 義理 9. 動物と比喩
テキスト	自主教材、金子武雄『日本の諺』（1982年）等
成績評価の方法	授業への出席状況とレポートによって評価する。



授業科目	日本語古文特別演習 A
担当教官	多和田眞一郎
目 標	「日本語古文」基礎を学習する。 日本語古文読解のための基本的知識を身につける。
内 容	現代日本語との関連を考慮に入れながら、日本語古文を理解するための基礎力を養う。合わせて、研究のための資料として古文書を扱う際の心得についても考える。  (内容) 現代語と古典語、古典語文法基礎、十九世紀の日本語の例、十八世紀の日本語の例、十七世紀の日本語の例、漢文の基礎等
テキスト	自主教材（プリント配布）
成績評価の方法	出席、試験

授業科目	日本語古文特別演習 B
担当教官	多和田眞一郎
目 標	日本語古文特別演習Aを踏まえ、「日本語古文」の応用学習をする。日本語古文読解のための応用的知識を身につける。
内 容	日本語古文読解ための応用力を養う。合わせて、研究のための資料として古文書を扱う際の問題点についても考える。  (内容) 現代語と古典語、古典語文法、十九世紀の日本語の読解、十八世紀の日本語の読解、十七世紀の日本語の読解、漢文の読解等
テキスト	自主教材（プリント配布）
成績評価の方法	出席、試験

授業科目	日本語語彙特別演習 A
担当教官	田村泰男
目 標	常用漢字に採択されている漢字の訓読みや慣用句、擬音語・擬態語を学習することによって、より自然な日本語表現能力の習得を目指す。
内 容	1. 漢字の訓読み 2. 同訓異字 3. 各種比喻表現 4. 身体語彙を使った慣用句 5. 動植物の語彙を使った慣用句 6. 擬音語・擬態語
テキスト	プリントを配布する。
成績評価の方法	テスト、出席、宿題

授業科目	日本語語彙特別演習 B
担当教官	田村泰男
目 標	慣用的な読み方をする漢字や類義語、接頭辞・接尾辞などを学習することによって、日本語での表現能力を高めるとともに、各種類意表現のもつ意味上の微妙な違いについての理解をはかる。
内 容	1. 特別な読み方をする漢字 2. 送り仮名によって読み方の違う漢字 3. 読み方が二通りある漢字熟語 4. 国字 5. 疊語 6. 類義語・類意表現 7. 若者語 8. 外来語 9. 接頭辞・接尾辞
テキスト	プリントを配布する。
成績評価の方法	テスト、出席、宿題

授業科目	映像日本語特別演習 A
担当教官	石原淳也
目 標	日本映画・アニメーションを見ていく中で、1)日本語の音声に関する解説および聞き取り練習を行うこと、2)セリフに出てくる語の用法・意味の解説を通じて語彙を増やすこと、3)映画の中で出演者がなぜそのように振る舞うかということを通じて日本人の考え方を理解すること、4)映画の中で扱われるエピソードを通じて日本の文化を知ることが目標とする。
内 容	第1週 - 第9週 「金融腐食列島」を最後まで見た後、もう一度最初から少しずつ音声、語彙、行動等について質問、解説を行う。  第10週 - 第15週 「うる星やつら」を見た後、もう一度最初から少しずつ音声、語彙、行動等について質問、解説を行う。
テキスト	必要に応じプリントを配布。
成績評価の方法	出席・授業態度・レポート

授業科目	映像日本語特別演習 B
担当教官	石原淳也
目 標	日本映画・アニメーションを見ていく中で、 1)日本語の音声に関する解説および聞き取り練習を行うこと 2)セリフに出てくる語の用法・意味の解説を通じて語彙を増やすこと 3)映画の中で出演者がなぜそのように振る舞うかということを通じて日本人の考え方を理解すること 4)映画の中で扱われるエピソードを通じて日本の文化を知ることが目標とする。
内 容	映画・アニメーションを見た後、もう一度最初から少しずつ音声、語彙、行動等について質問、解説を行う。
テキスト	必要に応じプリントを配布。
成績評価の方法	出席・授業態度・レポート

授業科目	論文作成法 A
担当教官	中矢礼美
目 標	大学の講義を受講したり、研究活動を行ったりするのに必要な高度な日本語の運用能力を身につける。学術的なテーマについて、日本語による討議、発表、レポート・論文作成ができる能力を育成する。
内 容	第1回 レポートの文体 第2回 課題の提示 第3回 目的の提示 第4回 定義と分類 第5回 図表の提示 第6回 変化の形容 第7回 対比と比較 第8回 原因の考察 第9回 列挙 第10回 引用 第11回 同意と反論 第12回 帰結 第13回 結論の提示 第14回 文型・表現 第15回 日本語論文モデルの購読・解説
テキスト	『留学生の日本語④論文作成編』
成績評価の方法	出席、授業態度、試験結果

授業科目	論文作成法 B
担当教官	中矢礼美
目 標	大学の講義を受講したり、研究活動を行ったりするのに必要な高度な日本語の運用能力を身につける。学術的なテーマについて、日本語による討議、発表、レポート・論文作成ができる能力を育成する。
内 容	第1回 レポートの文体 第2回 課題の提示 第3回 目的の提示 第4回 定義と分類 第5回 図表の提示 第6回 変化の形容 第7回 対比と比較 第8回 原因の考察 第9回 列挙 第10回 引用 第11回 同意と反論 第12回 帰結 第13回 結論の提示 第14回 文型・表現 第15回 日本語論文モデルの購読・解説
テキスト	『留学生の日本語④論文作成編』
成績評価の方法	出席、授業態度、試験結果

・日本事情

授業科目	日本の社会・文化A
担当教官	中矢礼美
目 標	この授業の目標は、現代日本における特徴的な社会現象あるいは問題を取りあげ、社会学、生命倫理学、教育学の視点から読み解き、日本の社会と文化に対する認識をより深めることである。
内 容	1.2. 若者のライフスタイルと職業意識 3.4. 日本における「中流階級文化」 5.6. ジェンダーフリー 7. 試験 8.9. 生命倫理 10.11.12. 現代家族の様相 13.14. 現代の教育課題と教育改革 15. 試験
テキスト	テキストは特になし。毎回の授業テーマに沿った資料をコピーして配布する。
成績評価の方法	出席50%、試験50%

授業科目	日本の社会・文化B
担当教官	中矢礼美
目 標	この授業の目標は、現代日本における特徴的な社会現象あるいは問題を取りあげ、社会学、教育学、人類学の視点から読み解き、日本の社会と文化に対する認識をより深めることである。
内 容	1. 2. メディアとは何か 3. 4. サブカルチャーとは何か 5. 6. 少年犯罪 7. 試験 8. 9. 男性学と女性学 10. 11. 教育問題—不登校・学級崩壊 12. 13. 14. 観光人類学—観光のしかけ・観光が作り出す文化 15. 試験
テキスト	テキストは特になし。毎回の授業テーマに沿った資料をコピーして配布する。
成績評価の方法	出席50%、試験50%

・ 特定研究

授業科目	日本語・日本文化特別研究Ⅰ
担当教官	中川正弘・田村泰男・石原淳也
目 標	一連の特別講義、および見学・実習から、高度な日本語の知識や運用能力を身に付け、日本および広島周辺の社会・文化についての理解を深める。
内 容	日本語・日本文化研修プログラムの一環として、日本語・日本文化に関する講義、日本および広島周辺地域における社会、産業、文化を理解するための実地研修ならびに研究指導を行なう。  オリエンテーション、日本語・日本文化特別講義Ⅰ～Ⅵ、 地域研修Ⅰ～Ⅵ、研修レポート構想発表
テキスト	必要に応じてプリントを配布。
成績評価の方法	出席・レポート・宿題

授業科目	日本語・日本文化特別研究Ⅱ
担当教官	中川正弘・田村泰男・石原淳也
目 標	一連の特別講義、および見学・実習から、高度な日本語の知識や運用能力を身に付け、日本および広島周辺の社会・文化についての理解を深める。
内 容	日本語・日本文化研修プログラムの一環として、日本語・日本文化に関する講義、日本および広島周辺地域における社会、産業、文化を理解するための実地研修ならびに研究指導を行なう。  オリエンテーション 研修レポート構想発表 日本語・日本文化特別講義Ⅶ～Ⅻ 地域研修Ⅶ～Ⅻ 研修レポート要旨発表
テキスト	必要に応じてプリントを配布。
成績評価の方法	出席・レポート・宿題

(霞キャンパス)

・レベル 1

授業科目	総合日本語初級ⅠA・ⅠB
担当教官	山中康子・渡部浩見
目 標	かな及び基本的な漢字の読み方・書き方、初歩的な文法を習得させる。
内 容	ガイダンス、ひらがな、毎日の挨拶、ひらかな練習、自己紹介、カタカナ、疑問表現、かな練習、提示の表現、目的語 日常活動の 表現、時間表現、行動予定の表現、完了時制1)、移動の動詞、時の表現、勧誘の動詞、存在の動詞、位置の表現、目的の表現、授受の表現、形容詞、完了時制2)、希望の表現、好悪・程度の表 現、比較・最上級、期末試験
テキスト	「Basic Japanese for Students はかせⅠ」 (スリーエーネットワーク)
成績評価の方法	出席・試験・宿題

・レベル 2

授業科目	総合日本語初級ⅡA
担当教官	渡部浩見
目 標	初級後半レベルの基礎的な語彙・文型・表現を学習し、併せて種々の場面に応じた実用的な日本語表現能力を習得させる。
内 容	ガイダンス、レベルチェック、初級1の復習、理由の表現、丁寧表 現、助数詞、依頼表現、継起的動作、時間・期間の表現、進行中の 動作、習慣・家族について話す、許可・禁止の表現、動詞の否定 形、経験の表現、助言・提案の表現、スケジュールをメモする、動 詞の辞書形、可能表現、趣味を語る、名詞句、意見を述べる、伝言 を伝える、普通体の使い方、同時制の従属節、条件・譲歩の従属 節、話し言葉の文体、状態の変化、 お礼の手紙を書く、期末試験
テキスト	「Basic Japanese for Students はかせⅡ」 (スリーエーネットワーク)
成績評価の方法	出席・試験

# 留学生関係科目 (2012年4月～2013年3月)

田村泰男

1. 授業科目一覧

・東広島キャンパス

授 業 科 目	開 設 単 位 数	学 期 別 週 授 業 時 数		備 考
		前 期	後 期	
Elementary Japanese I A	2		2	広島大学短期交換留学生のための授業である。
Elementary Japanese I B	2		2	
Elementary Japanese I C	2		2	
Elementary Japanese I D	2		2	
Elementary Japanese II A	2・2	2	2	
Elementary Japanese II B	2・2	2	2	
Elementary Japanese II C	2・2	2	2	
Intermediate Japanese I A	2		2	
Intermediate Japanese I B	2		2	
Intermediate Japanese I C	2		2	
Intermediate Japanese I D	2	2		
Intermediate Japanese I E	2	2		
Intermediate Japanese I F	2	2		
Intermediate Japanese II A	2		2	
Intermediate Japanese II B	2		2	
Intermediate Japanese II C	2		2	
Intermediate Japanese II D	2	2		
Intermediate Japanese II E	2	2		
Intermediate Japanese II F	2	2		



Advanced Japanese A (Listening)	2	2	
Advanced Japanese B (Listening)	2		2
Advanced Japanese A (Analysis)	2	2	
Advanced Japanese B (Analysis)	2		2
Advanced Japanese A (Expression)	2	2	
Advanced Japanese B (Expression)	2		2
Advanced Japanese A (Classical)	2	2	
Advanced Japanese B (Classical)	2		2
Advanced Japanese A (Lexical)	2	2	
Advanced Japanese B (Lexical)	2		2
Advanced Japanese A (Cinema)	2	2	
Advanced Japanese B (Cinema)	2		2
Academic Writing A	2	2	
Academic Writing B	2		2
Japanese Society and Culture A	2	2	
Japanese Society and Culture B	2		2

## 2. 授業内容

(東広島キャンパス)

### ・レベル1

授業科目	Elementary Japanese I A・I B・I C
担当教官	堀田泰司
目 標	かな及び基本的な漢字の読み方・書き方、初歩的な文法を習得させる。
内 容	1. 文字の導入 2. 基本文型の導入 3. 音読練習 4. 口頭及び筆記による応用練習
テキスト	「みんなの日本語初級 I 本冊」 (スリーエーネットワーク)
成績評価の方法	出席・試験・宿題

### ・レベル2

授業科目	Elementary Japanese II A・II B・II C
担当教官	恒松直美
目 標	初級後半レベルの基礎的な語彙・文型・表現を学習し、併せて種々の場面に応じた実用的な日本語表現能力を習得させる。
内 容	第1週- 第5週 依頼表現、可能表現、継続・習慣の表現、理由の表現、意志・予定の表現、完了表現、自動詞／他動詞、推量表現、忠告の表現、命令・禁止表現、テスト(1) 第6週- 第10週 時間表現、付帯状況の表現、条件表現、目的・目標の表現、状態変化の表現、受身表現、形式名詞、理由・原因の表現、疑問詞疑問文、試行の表現、テスト(2) 第11週- 第15週 授受表現、目的の表現、様態の表現、移動の表現、難易表現、伝聞表現、使役表現、敬語、テスト(3)
テキスト	「みんなの日本語初級 II 本冊」 (スリーエーネットワーク)
成績評価の方法	出席・小テスト・宿題・中間期末試験

・レベル3

授業科目	Intermediate Japanese I A・I B
担当教官	石原淳也
目 標	中級レベルの長い文章を読み、それが何を伝えようとしたものであるかを確実に読みとる読解力を身に付け、さらにその内容を的確に言語表現できる能力を養うことを目標とする。
内 容	その課に出てくる文型、語彙等について解説を加えた後、長文を読み内容を理解したうえで、長文の内容についての質問に答える。適宜、トピックに関連した日本文化についての解説を加える。 第1週～第7週 新宿、工場見学、方言、思い出の人形、日本間、青と緑、テスト 第8週～第15週 マンガ、志のままに、すし、河童、寄席、睡眠、テスト
テキスト	「日本語2ndステップ」(白帝社)
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	Intermediate Japanese I C
担当教官	下村真理子
目 標	音声教材を用いて、一定の長さの説明文や解説文の聞き取り能力を養うとともに総合的な日本語能力を高める。
内 容	1) トピックに関するCDを聞いて質問に答え、内容を理解する。 2) スクリプトを使用した様々な練習をすることによって、総合的な日本語力を身につける。 3) 内容について話し合ったり、要約文を書いたりする。 本授業では次のトピックを扱う： もしもし、旗のデザイン、海からの便り、カラスのカー子ちゃん、たためるピアノ、日本人と果物、待つ時間・待たせる時間、震度3、世界の人口、牛丼の作り方、ドライアイ、日本の地方都市、横断歩道、弁当の日、コンビニ図書館、右回りの時計、目にやさしい色、上手に泣いて、ストレス解消、阿波踊り、富士山が見えるところ、アニメ文化の輸出、十二支の話、東京を回る山手線、どんな結婚披露宴がいい？、通話をやめた若者
テキスト	「新・毎日の聞き取り50日 vol.1」(凡人社)
成績評価の方法	出席状況と平常点、および期末試験による総合評価。

授業科目	Intermediate Japanese I D・I E
担当教官	石原淳也
目 標	中級レベルの長文を読み、内容を理解する能力を身に付ける。今までに学んだ基本的な表現を使って、日本語で議論をしたり自分の意見を表現できるようにする。
内 容	その課に出てくる文型、語彙等について解説を加えた後、長文を読み内容を理解したうえで、長文の内容についての質問に答える。適宜、トピックに関連した日本文化についての解説を加える。 第1週～第7週 新宿、工場見学、方言、思い出の人形、日本間、青と緑、テスト 第8週～第15週 マンガ、志のままに、すし、河童、寄席、睡眠、テスト
テキスト	「日本語2ndステップ」(白帝社)
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	Intermediate Japanese I F
担当教官	下村真理子
目 標	さまざまな形式の文章表現を耳から理解できるようになる。
内 容	1) トピックに関するCDを聞いて質問に答え、内容を理解する。 2) スクリプトを使用した様々な練習をすることによって、総合的な日本語力を身につける。 3) 内容について話し合ったり、要約文を書いたりする。 本授業では次のトピックを扱う： いただきます、川を渡る、車は左、人は右？、千羽鶴、合格は誰のおかげ？、時差ぼけ、小判がこわい、道路からメロディー、カラオケ発明者にノーベル賞？、砂糖の消費量、盆栽、駅伝、波力発電、河童、 「もったいない」を国際語に！、思いがけない援助、新幹線の顔、ビルの地下の野菜畑、イルカは頭がいい？、留学生文学賞、菜の花プロジェクト、今日は何色のスーツですか 缶コーヒーの値段、あがらないためには、国際宇宙ステーション
テキスト	「新・毎日の聞き取り50日 vol.2」(凡人社)
成績評価の方法	出席と試験および宿題による評価。

・レベル4

授業科目	Intermediate Japanese II A・II B
担当教官	田村泰男
目 標	中級レベルの文法・語彙・表現の定着を図るとともに長文読解能力を養成する。
内 容	<p>トピックに基づいて書かれた日本語中級学習者用の読解教材を読み進みながら、中級レベルの文型・語彙・表現を学習し、部分作文によって新出項目の定着を図る。</p> <p>授業では、特に次の語彙・表現の解説を行う。</p> <p>～ながら、～まい、～わけだ、～でも、～ほど、～なら、～ても、～てくる、～てしまう、～ながら、～よう、～がる、～ことにする／なる、～とか～とか、～させる、～てたまらない、～たばかり、～ものだ、～てみる、～中、～し～し、～かもしれません、～つもり、～くらい、～なければならない、～まま、～ようとしなない、～たものだ、～から～にかけて、～ものの、～やら～やら、～につれて、～ば～ほど、～として、～によって、～ところ、～にとって、～はずだ、～さえ、～うちに、～はずがない</p>
テキスト	「テーマ別中級から学ぶ日本語」(研究社)
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	Intermediate Japanese II C
担当教官	坂田光美
目 標	身近なトピックにより、日本に対する理解を深めるとともに、多様な場面や状況を理解し、語彙を増やす。聞き取りだけでなく、多角的な練習により、総合的な日本語の力を伸ばす。
内 容	<p>教材を聴く前にまず、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) イラストによって、教材の内容を概観する。</li> <li>(2) 関連語彙や、背景となる知識を導入する。</li> <li>(3) 教材の内容に関する短い文章を読み、クイズに答える。</li> </ol> <p>教材を聴いた後</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(4) タスクに答える。</li> <li>(5) 話題に関連した補足説明を読み、知識を深める。</li> <li>(6) 語彙、表現の定着を図るために、口頭練習を行う。</li> <li>(7) 音声言語としての日本語についての理解を深める。</li> </ol>
テキスト	「毎日の聞き取りplus40 上」(凡人社)
成績評価の方法	試験、出席、課題

授業科目	Intermediate Japanese II D・II E
担当教官	田村泰男
目 標	中級レベルの文法・語彙・表現の定着を図るとともに長文読解能力を養成する。
内 容	<p>トピックに基づいて書かれた日本語中級学習者用の読解教材を読み進みながら、中級レベルの文型・語彙・表現を学習する。</p> <p>授業では、特に次の語彙・表現の解説を行う。</p> <p>～という、～に基づく～、～と同時に、～による、～際、～にかけて、～さえ、～なんて、こと、～を問わず、～をめぐって、～ところ、～向き／～向け、～における、～上、～うえで、～なり、V たN、～という点、～にかかわる、～をもたらす、～に対して／～にとって、～ばかり／～だけ、～を通して／～を通じて、～ぶり、～とはいえ、～当たり、たとえ～も、～やら～やら、～に関する～、～限り、～がち、～っぱなし、～以上、～抜き、～のおかげで／～せいで、～にもかかわらず、～につれて、～に例える、～に違いない、～得ない／～得る、～っぽい、～にしても、～つつ、～めく、～かのように、～結果、～に比べて、もの</p>
テキスト	「中級を学ぼう 日本語の文型と表現 82」 (スリーエーネットワーク)
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	Intermediate Japanese II F
担当教官	坂田光美
目 標	身近なトピックにより、日本に対する理解を深めるとともに、多様な場面や状況を理解し、語彙を増やす。聞き取りだけでなく、多角的な練習により、総合的な日本語の力を伸ばす。
内 容	<p>教材を聴く前に先ず、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) イラストによって、教材の内容を概観する。</li> <li>(2) 関連語彙や、背景となる知識を導入する。</li> <li>(3) 教材の内容に関する短い文章を読み、クイズに答える。</li> </ol> <p>教材を聴いた後</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(4) タスクに答える。</li> <li>(5) 話題に関連した補足説明を読み、知識を深める。</li> <li>(6) 語彙、表現の定着を図るために、口頭練習を行う。</li> <li>(7) 音声言語としての日本語についての理解を深める。</li> </ol>
テキスト	「毎日の聞き取りplus40 下」 (凡人社)
成績評価の方法	中間試験、期末試験、及び出席状況を考慮して評価する。

・レベル5

授業科目	Advanced Japanese A (Listening)
担当教官	深見 兼孝
目 標	現代日本のさまざまな問題を取り上げた時事エッセイの聴解能力を養い、併せてそれに特有の語彙・表現を学習する。
内 容	<p>次のような段階を踏んで、内容を理解する練習を行う。 後にそれを文字化したものを読み、理解を補う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) キーワードの理解と聞き取り</li> <li>2) 概要の把握</li> <li>3) 細部の聞き取り</li> </ol> <p>さらに、重要語句の使い方について練習する。</p>
テキスト	市販の中・上級用教材の一部と付属のテープ。および担当者の自主教材。
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	Advanced Japanese B (Listening)
担当教官	深見兼孝
目 標	ニュースの聴解能力を養い、併せてそれに特有の語彙・表現を学習する。
内 容	<p>ニュースを聞き、次の段階を踏んでその内容を理解する練習を行う。また、スクリプトの完成を行うことによって、漢字、語彙、表現の使い方を学習する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) キーワードの理解と聞き取り</li> <li>2) 概要の聞き取り</li> <li>3) 細部の聞き取り</li> <li>4) ディクテーション</li> </ol>
テキスト	市販の中・上級用教材の一部と付属のテープ。および担当者の自主教材。
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	Advanced Japanese A (Analysis)
担当教官	中川正弘
目 標	日本語で文章を綴ることに慣れ、自分たち外国人の日本語を日本人の日本語と比較分析することで日本語の理解を深める。
内 容	自分の使う日本語をはっきりと目に見える形にするために、毎週日本語作文を提出してもらおう。その作文は自分の書いた文章と書き直しが客観的に対照しやすいようにワープロ編集をして返すので、自分の日本語の問題点を考える。授業ではそれらの日本語作文から間違っている文、あるいは何か問題がある文を例に選び、時には何通りもある書き直し方や関連するさまざまな文法、表現の例と比較しながら、日本人の日本語がどのような感覚、心理、考え方を土台としているかを分析し、さまざまな文体的事象について解説していく。前期は日本語への翻訳、要約を多く扱う。
テキスト	用例のプリントを毎回配布する。
成績評価の方法	提出作文、テスト

授業科目	Advanced Japanese B (Analysis)
担当教官	中川正弘
目 標	日本語で文章を綴ることに慣れ、自分たち外国人の日本語を日本人の日本語と比較分析することで日本語の理解を深める。
内 容	自分の使う日本語をはっきりと目に見える形にするために、毎週日本語作文を提出してもらおう。その作文は自分の書いた文章と書き直しが客観的に対照しやすいようにワープロ編集をして返すので、自分の日本語の問題点を考える。授業ではそれらの日本語作文から間違っている文、あるいは何か問題がある文を例に選び、時には何通りもある書き直し方や関連するさまざまな文法、表現の例と比較しながら、日本人の日本語がどのような感覚、心理、考え方を土台としているかを分析し、さまざまな文体的事象について解説していく。後期は報告文、説明文を多く扱う。
テキスト	用例のプリントを毎回配布する。
成績評価の方法	提出作文、テスト



授業科目	Advanced Japanese A (Expression)
担当教官	浮田三郎
目 標	日本の諺を教材にして、時には世界各国の諺と対照比較し、日本語的な表現法、比喩表現の面白さ、日本的な考え方、日本の文化や風土などの理解を目指す。
内 容	日本の代表的な諺を、時には世界各国の諺と対照比較しながら、留学生達の意見を発表してもらい、ディスカッションする。日本語的な表現法を学習し、各々の諺が持っているテーマや特徴を、簡単なクイズ形式の設問を用いて、考えてみる機会を与える。  テーマ別には、以下に掲げる通りである。  1. 諺の表現法 2. 親と子 3. 夫婦 4. 恋愛 5. 油断と用心 6. 欲 7. 酒 8. 友 9. 秘密
テキスト	自主教材、金子武雄『日本の諺』（1982年）等
成績評価の方法	授業への出席状況とレポートによって評価する。

授業科目	Advanced Japanese B (Expression)
担当教官	浮田三郎
目 標	日本の諺を教材にして、時には世界各国の諺と対照比較し、日本語的な表現法、比喩表現の面白さ、日本的な考え方、日本の文化や風土などの理解を目指す。
内 容	日本の代表的な諺を、時には世界各国の諺と対照比較しながら、留学生達の意見を発表してもらい、ディスカッションする。日本語的な表現法を学習し、各々の諺が持っているテーマや特徴を、簡単なクイズ形式の設問を用いて、考えてみる機会を与える。テーマ別には、以下に掲げる通りである。  1. 睡眠 2. 病気 3. 生死 4. 季節 5. 天候 6. 学者 7. 教育 8. 義理 9. 動物と比喩
テキスト	自主教材、金子武雄『日本の諺』（1982年）等
成績評価の方法	授業への出席状況とレポートによって評価する。

授業科目	Advanced Japanese A (Classical)
担当教官	多和田眞一郎
目 標	「日本語古文」基礎を学習する。 日本語古文読解のための基本的知識を身につける。
内 容	現代日本語との関連を考慮に入れながら、日本語古文を理解するための基礎力を養う。合わせて、研究のための資料として古文書を扱う際の心得についても考える。  (内容) 現代語と古典語、古典語文法基礎、十九世紀の日本語の例、十八世紀の日本語の例、十七世紀の日本語の例、漢文の基礎等
テキスト	自主教材（プリント配布）
成績評価の方法	出席、試験

授業科目	Advanced Japanese B (Classical)
担当教官	多和田眞一郎
目 標	日本語古文特別演習Aを踏まえ、「日本語古文」の応用学習をする。日本語古文読解のための応用的知識を身につける。
内 容	日本語古文読解ための応用力を養う。合わせて、研究のための資料として古文書を扱う際の問題点についても考える。  (内容) 現代語と古典語、古典語文法、十九世紀の日本語の読解、十八世紀の日本語の読解、十七世紀の日本語の読解、漢文の読解等
テキスト	自主教材（プリント配布）
成績評価の方法	出席、試験

授業科目	Advanced Japanese A (Lexical)
担当教官	田村泰男
目 標	常用漢字に採択されている漢字の訓読みや慣用句、擬音語・擬態語を学習することによって、より自然な日本語表現能力の習得を目指す。
内 容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 漢字の訓読み</li> <li>2. 同訓異字</li> <li>3. 各種比喻表現</li> <li>4. 身体語彙を使った慣用句</li> <li>5. 動植物の語彙を使った慣用句</li> <li>6. 擬音語・擬態語</li> </ol>
テキスト	プリントを配布する。
成績評価の方法	テスト、出席、宿題

授業科目	Advanced Japanese B (Lexical)
担当教官	田村泰男
目 標	慣用的な読み方をする漢字や類義語、接頭辞・接尾辞などを学習することによって、日本語での表現能力を高めるとともに、各種類意表現のもつ意味上の微妙な違いについての理解をはかる。
内 容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 特別な読み方をする漢字</li> <li>2. 送り仮名によって読み方の違う漢字</li> <li>3. 読み方が二通りある漢字熟語</li> <li>4. 国字    5. 疊語    6. 類義語・類意表現</li> <li>7. 若者語   8. 外来語   9. 接頭辞・接尾辞</li> </ol>
テキスト	プリントを配布する。
成績評価の方法	テスト、出席、宿題

授業科目	Advanced Japanese A (Cinema)
担当教官	石原淳也
目 標	日本映画・アニメーションを見ていく中で、1)日本語の音声に関する解説および聞き取り練習を行うこと、2)セリフに出てくる語の用法・意味の解説を通じて語彙を増やすこと、3)映画の中で出演者がなぜそのように振る舞うかということを通じて日本人の考え方を理解すること、4)映画の中で扱われるエピソードを通じて日本の文化を知ること为目标とする。
内 容	第1週-第9週 「金融腐食列島」を最後まで見た後、もう一度最初から少しずつ音声、語彙、行動等について質問、解説を行う。  第10週-第15週 「うる星やつら」を見た後、もう一度最初から少しずつ音声、語彙、行動等について質問、解説を行う。
テキスト	必要に応じプリントを配布。
成績評価の方法	出席・授業態度・レポート

授業科目	Advanced Japanese B (Cinema)
担当教官	石原淳也
目 標	日本映画・アニメーションを見ていく中で、 1)日本語の音声に関する解説および聞き取り練習を行うこと 2)セリフに出てくる語の用法・意味の解説を通じて語彙を増やすこと 3)映画の中で出演者がなぜそのように振る舞うかということを通じて日本人の考え方を理解すること 4)映画の中で扱われるエピソードを通じて日本の文化を知ること为目标とする。
内 容	映画・アニメーションを見た後、もう一度最初から少しずつ音声、語彙、行動等について質問、解説を行う。
テキスト	必要に応じプリントを配布。
成績評価の方法	出席・授業態度・レポート

授業科目	Academic Writing A
担当教官	中矢礼美
目 標	大学の講義を受講したり、研究活動を行ったりするのに必要な高度な日本語の運用能力を身につける。学術的なテーマについて、日本語による討議、発表、レポート・論文作成ができる能力を育成する。
内 容	第1回 レポートの文体 第2回 課題の提示 第3回 目的の提示 第4回 定義と分類 第5回 図表の提示 第6回 変化の形容 第7回 対比と比較 第8回 原因の考察 第9回 列挙 第10回 引用 第11回 同意と反論 第12回 帰結 第13回 結論の提示 第14回 文型・表現 第15回 日本語論文モデルの購読・解説
テキスト	『留学生の日本語④論文作成編』
成績評価の方法	出席、授業態度、試験結果

授業科目	Academic Writing B
担当教官	中矢礼美
目 標	大学の講義を受講したり、研究活動を行ったりするのに必要な高度な日本語の運用能力を身につける。学術的なテーマについて、日本語による討議、発表、レポート・論文作成ができる能力を育成する。
内 容	第1回 レポートの文体 第2回 課題の提示 第3回 目的の提示 第4回 定義と分類 第5回 図表の提示 第6回 変化の形容 第7回 対比と比較 第8回 原因の考察 第9回 列挙 第10回 引用 第11回 同意と反論 第12回 帰結 第13回 結論の提示 第14回 文型・表現 第15回 日本語論文モデルの購読・解説
テキスト	『留学生の日本語④論文作成編』
成績評価の方法	出席、授業態度、試験結果

・日本事情

授業科目	Japanese Society and Culture A
担当教官	中矢礼美
目 標	この授業の目標は、現代日本における特徴的な社会現象あるいは問題を取りあげ、社会学、生命倫理学、教育学の視点から読み解き、日本の社会と文化に対する認識をより深めることである。
内 容	1.2. 若者のライフスタイルと職業意識 3.4. 日本における「中流階級文化」 5.6. ジェンダーフリー 7. 試験 8.9. 生命倫理 10.11.12. 現代家族の様相 13.14. 現代の教育課題と教育改革 15. 試験
テキスト	テキストは特になし。毎回の授業テーマに沿った資料をコピーして配布する。
成績評価の方法	出席50%、試験50%

授業科目	Japanese Society and Culture B
担当教官	中矢礼美
目 標	この授業の目標は、現代日本における特徴的な社会現象あるいは問題を取りあげ、社会学、教育学、人類学の視点から読み解き、日本の社会と文化に対する認識をより深めることである。
内 容	1. 2. メディアとは何か 3. 4. サブカルチャーとは何か 5. 6. 少年犯罪 7. 試験 8. 9. 男性学と女性学 10. 11. 教育問題—不登校・学級崩壊 12. 13. 14. 観光人類学—観光のしかけ・観光が作り出す文化 15. 試験
テキスト	テキストは特になし。毎回の授業テーマに沿った資料をコピーして配布する。
成績評価の方法	出席50%、試験50%

## 第 27 期 (2011 - 2012) 日本語・日本文化研修プログラム

石原淳也

### <プログラム概要>

本プログラムは、本国際センター（2010年に旧留学生センターから改組）で受け入れる大使館推薦による「日本語・日本文化研修プログラム」研修留学生を中心に、部局間協定に基づき教育学部で受け入れられている「日本語・日本文化研修プログラム」研修留学生を対象に加え、国際センターの四人の教員からなる「日本語・日本文化研修プログラム実施委員会」により運営され、(1) 全学の留学生向けの「日本語・日本事情」で開設されているクラスから選択履修する「日本語研修」、(2) 学内、学外の講師による特別講義および文化施設・文化財等の見学などからなる「日本語・日本文化特別研究 I, II」、そして (3) 指導教員のもとでの「個別指導および課題研究」の三つの内容により構成されている。

研修生は「個別指導および課題研究」での研究経過を「日本語・日本文化特別研究 I, II」の時間中に構想発表および中間発表として発表するとともに、修了式の前に行われる研修成果発表会においてその研究の成果を発表し、指導教員と国際センターにレポートを提出する。国際センターでは毎年これらをまとめて研修レポート集として刊行している。

### <受け入れ学生の概要>

第 27 期は国際センター受入のベトナム、キルギス、インドネシアからの学生それぞれ一名、部局間協定に基づく教育学部受け入れのニュージーランドからの学生が 1 名の計 4 名でプログラムを実施した。

## <特別講義等>

2011 年度（第 27 期）日本語・日本文化特別研究、および、その他の行事は、以下の通りである。

		(担当者)
10 月		
6 日	11:00 開講式	石原
7 日	10:30 プレイスメント・テスト	
	13:30 オリエンテーション	中川
14 日	特別講義「音声学」	石原
21 日	広島見学 1（広島城・平和公園）	石原
28 日	特別講義「現代日本語の語彙」	田村
11 月		
4 日	広島見学 2（現代美術館ほか/HS 協会対面）	中川
11 日	特別講義「日本語と文体」	中川
18 日	宮島見学	石原
25 日	特別講義「俳句入門」	浮田
12 月		
2 日	特別講義「第二言語の学習ストラテジー」	畑佐：教育学研究科
9 日	西条酒造会社見学	田村
16 日	マツダ見学	石原
1 月		
13 日	特別講義「日本の考古学」	古瀬：文学研究科
20 日	特別講義「世界の平和教育」	中矢
27 日	福山見学	田村
3 月		
23-24 日	瀬戸内海しまなみ研修ツアー	中川



4月

6日	プレイスメントテスト1	
13日	オリエンテーション2	中川
20日	特別講義「比較言語文化論の視点」	浮田
27日	研修レポート構想発表	石原

5月

4日	祝日（ゴールデンウィーク）	
11日	特別講義「日本語と文体」	中川
18日	サタケ見学	中川
25日	特別講義「古事記と日本神話」	石原

6月

1日	特別講義「沖縄のことば」	多和田
8日	特別講義「日本社会とジェンダー」	恒松
15日	呉見学：大和ミュージアム他	中川
22日	尾道見学	田村
29日	特別講義「日本の高等教育の国際化と市場化」	中矢
30日	ホームステイ協会交流会	中川

7月

6日	研修レポート中間発表	石原
15日	映画「日本誕生」	中川
20-21日	松江・出雲見学旅行	石原

9月

7日	レポート提出締め切り	石原
10日	レポート発表会、修了式	

## 第13期 平成24年度(2012年度) 日韓共同理工系学部留学生事業入学前予備教育

石原淳也

平成10年10月の「日韓共同宣言」、平成12年8月に文部省より通知のあった「日韓共同理工系学部留学生事業実施要項」、同年8月に決定された「広島大学日韓理工系学部留学生事業」実施要項および「広島大学日韓理工系学部留学生事業」入学前予備教育実施要項に基づき、平成12年11月より広島大学においても学部入学前予備教育生に対する「広島大学日韓理工系学部留学生事業」の予備教育が開始された。以来、平成15年度まで各5名ずつ、平成16年度2名、17年度5名、18年度4名、19年度、20年度は5名、21年度2名、22年度5名、23年度5名と途切れることなく学部入学前予備教育生を受け入れ、24年度は6名の予備教育生を受け入れることとなった。

旧留学生センターは同事業の立ち上げ段階である平成12年6月の「広島大学日韓共同理工系学部留学生事業」ワーキンググループの発足段階から同事業の予備教育実施機関として中心的な役割を果たしてきた。法人化による国際交流委員会の廃止で、平成16年度より21年度まで「広島大学日韓理工系学部留学生事業」実施部会は留学生センター運営委員会のもとに組織されてきたが、昨年度からは、旧留学生センターの改組に伴い、留学生センター運営委員会が廃止されたため、「広島大学日韓理工系学部留学生事業」実施部会は国際センター長を部会長として国際センターの下に組織されている。国際センター(旧留学生センター)からはセンター長のほか、石原准教授が委員・副部会長として部会に参加している。

本事業において国際センターは

1. 「広島大学日韓共同理工系学部留学生事業」実施部会への参加
  2. 「広島大学日韓共同理工系学部留学生事業」予備教育の実施
  3. 学部入学前予備教育生に対する修学上・生活上の指導・助言
  4. 「広島大学日韓共同理工系学部留学生事業」予備教育の計画策定
  5. 見学引率
  6. 日本語教育謝金講師の指導・サポート
  7. その他謝金講師のサポート
  8. 学生チューターの指導
- 等の業務を行っている。

本学で実施する予備教育について

・日本語科目

平成 15 年度までは、入学前予備教育において、日韓共同理工系学部留学生用に特別の日本語教育を実施していたが、平成 16 年度からは全学の留学生に向け開講されている「日本語・日本事情」を履修させることとなった。以前は、学生の日本語能力に合わせ、レベル 3, 4 を履修させていたが、昨年度からレベル 4, 5 を履修させることとなった。また、学生の日本語能力の差にきめ細かく目配りできるよう、本予備教育生のみを対象とした日本語会話、日本語作文、日韓文化論を各 1 コマ開設している。

・専門科目

本学では第一期から、日本語とともに、数学、物理、化学に加え、学生が生物系に進学する可能性がある場合は生物も含めた理系科目を開設している。二年前までは、大学院生を講師に、大学入試レベルの問題演習を通して、入学後、日本語で実施される授業に十分ついて行けるだけの基本的な学力、授業を理解するのに最低限必要な日本語力を身につけさせるというものであったが、昨年度からは、広島大学マスターズという広大を退職された先生方の団体に講師を依頼することになり、授業内容も従来からの問題演習中心のものではなく、大学入学後、教養教育で行われる授業の基本的な内容を先取りし、講義の形で行うものとなっている。

また、英語に関しては外国語教育センターの全学向け「英語研修プログラム」から自分にあったものを選び、一コマ受講するようにした。

なお、本 24 年度における時間割、行事は以下の通り。

	月	火	水	木	金
1		数学 水田			日本語会話 坂田
2		日本の社会・ 文化 B 中矢		総合日本語 中級 II E 坂田	日韓比較文化論 坂田
3	化学 平田		映像日本語 特別演習 B 石原	生物 渡辺, 設楽, 梶井	日本語作文 坂田
4	日本語聴解 特別演習 B 深見	総合日本語 中級 II D 田村	物理 山下, 米倉	日本語分析 特別演習 B 中川	
5	英語 (1 コマ)				

	期間	行事等	見学(金曜)	備考
W0	10/1-10/6	4 渡日		
W1	10/7-10/13	8 体育の日 9 開講式 10 授業開始		月なし
W2	10/14-10/20		19 広島見学(広島城・平和公園)	
W3	10/21-10/27			
W4	10/28-11/3	3 文化の日		
W5	11/4-11/10		5 創立記念日	
W6	11/11-11/17			
W7	11/18-11/24	23 勤労感謝の日		金なし
W8	11/25-12/1		30 宮島見学	
W9	12/2-12/8			
W10	12/9-12/15		14 マツダ見学	
W11	12/16-12/22			
		23 天皇誕生日 冬休み(12/24-1/7)		
W12	1/6-1/12			
W13	1/13-1/19	14 成人の日		月なし
W14	1/20-1/26			
W15	1/27-2/2	専門科目終了		
W16	2/3-2/9			
W17	2/10-2/11	11 建国記念日		
		春休み(2/12- )		
	3/22	修了式		

# 平成 24 年度留学生支援にかかる活動報告

中矢礼美

本年度の主な活動は、次の5点である。1) 留学生修学相談、2) 留学生オリエンテーション、3) 留学生支援担当者ネットワークの拡充、4) 留学生支援調査、5) Face to Face Project(国際教育活動)。依然として、留学生指導担当という正式な役職のないままでの自主的活動に制限されている中ではあるが、今後の留学生支援体制整備にむけて、留学生支援ネットワーク連絡会、留学生支援等担当教職員連絡会の開催、学生チューターハンドブックの改訂、留学生支援調査など、一定の成果を上げることができた。

## 1. 留学生修学相談

本年度に相談に来た学生は、18人（電話のみ1人、メールのみ3人を含む）であり、のべ60回の相談を行った。相談の内容は、研究室のミスマッチ（研究したい内容と指導教員との専門に大きなずれがある）が前期6人、後期2人と最も多く、指導教員との相互不理解やコミュニケーション問題、指導教員によるアルバイト規制や日本語学習規制などが主な内容であった。その他、ホームシック、友人のDV問題、進学相談などである。研究室相談者のうち4人は指導教員を半年あるいは1年以内に変更することとなった。長引くケースは1件あり、ホームシックによる相談と突然の帰国によるその後のメールによるフォローと事務連絡などで半年に及んだ。

修学相談窓口を知ったきっかけは、オリエンテーション、講義、先輩、友人、出身国の指導教員であり、メールにて事前に面談予約をしてきた留学生は5人であった。

また、来日直後の死亡事後があり、その直後から病院、警察、領事館、市役所、留学生保護者への対応を国際交流部門とともに行った。また留学生会館に住む学生へのフォローは事故後2週間ほぼ毎日夕方か夜に交流ラウンジを訪問して行った。今回の対応として、以下のように多くの問題が浮かびあがった。

- ・ 死体安置の場所の確保
- ・ 保護者を呼び寄せる際の費用負担に関する交渉
- ・ 言語問題

(日本語と母国語が話せる留学生に多くの通訳をお願いしたことは、留学生の心理的負担を考えると、また事項の重大さから見ても大きな反省点である)

- ・ 学内連携（今回は、国際交流グループからすぐに連絡があり、すぐに対応に向かったが、誰が何をどこまでするのか、すべて手探りでありであった)

- ・警察の対応

(言語問題とも大きく関係するが、言語および留学生の心理的不安や不快感を回避するような専門的対応が当日に十分に行えなかった)

以上のような教訓を踏まえて緊急時対応マニュアルの作成を留学生支援ネットワークメンバーとともに取り組んだ。

## 2. 各種オリエンテーション

### 1) 新渡日留学生オリエンテーション

来日直後に全学の新渡日留学生を対象として前期1回、後期は2回行った。留学生支援ネットワークのメンバーを中心にそれぞれの担当について説明を行った。顔を見せることで留学生が相談に来やすくするように配慮した。具体的には、どのような問題が起こりうるのか、どのような問題で相談に来るのか、どのように解決していくのかななどを説明することで、留学生が安心して修学に臨めること、問題発生・拡大の事前予防策としての機能を重視した。また、昨年は霞キャンパスでのオリエンテーションにおいてテレビ会議方式を用いたが、問題が多かったため、本年度はテレビ会議方式は取りやめた。日本語・英語会場と中国語会場に分けて行うなどの工夫は引き続き行った

### 2) NOIE オリエンテーション

国際交流ボランティア改めNOIE(国際交流ネットワーク)に登録している留学生で、東広島市内の小中学校において市教育委員会と連携して行っている国際理解事業に参加したい学生に対して行う国際交流オリエンテーションである。正規の教育課程における教育活動であるため、事前に市教育委員会の担当指導主事の方と打ち合わせを行った上で、国際理解教育を専門とする筆者が、日本における国際理解教育および活動の際の留意点について説明を行う。説明に参加した留学生は市教育委員会に伝え、優先的に参加する機会を与えることとしている。オリエンテーション参加者も数名しか集まっていないという課題が残っている。

### 3) 学生チューターオリエンテーション

国際センター所属留学生の日本人学生チューターのオリエンテーションも実施し、留学生との良好な関係構築について、よくある事例をもとに理解をしてもらった。チューターハンドブックの改訂を行った。

## 3. 留学生支援担当者ネットワークの拡充

### 1) 留学生支援ネットワーク連絡会

留学生センター時に存在していた留学生支援体制協議会を改め、留学生支援担当者連絡

会を結成し、定期的に担当教職員が情報共有と留学生支援体制の拡充する活動を9回行った。議論の内容は、緊急時対応マニュアル作成、各種オリエンテーション内容、留学生支援調査票作成、留学生相談報告などである。

## 2) 留学生支援担当教職員連絡会

本年度前期の留学生支援担当教職員連絡会は、広島大学全学留学生等支援部会と兼ねたFD/SDとした。以下、FD/SDの際の中矢担当資料を示す。

\*\*\*\*\*

留学生教育支援FD/SD資料

2012年7月25日

### 留学生の修学に関する相談状況と対応について

中矢礼美（国際センター国際教育部門 准教授）

#### 1. 留学生の修学に関する相談事例

##### 1) 受け入れに関する教員からの相談

- ・教授から受け入れ可能な範囲を超えた学生の受け入れを強要される。大学として留学生受け入れ数増加に対する圧力がどの程度あるのか図りかねる。
- ・多数の研究生申込みメールが送られてきて、どのように返答してよいかわからない。

##### 2) 留学生からの修学相談事例

###### <研究室の変更>（研究生の場合）

- ・研究計画書には、これまで自分がやってきた研究とは違う内容に挑戦したいと書いていたが、指導教員はこれまでの専門領域を見て指導できると判断していた。新しい領域の研究は指導できないと言われ、途方にくれている。→新しい領域の指導可能な教員を同じ講座内で検討。
- ・研究を進めるうちに、どうしても自国を政治的に批判するような議論を展開しなければならなくなった。研究テーマそのものを変更しなければならないが、今の指導教員のもとでは難しい。  
→研究テーマの再考、指導可能な教員の検索方法を説明。希望教員に依頼と承諾の後、現在の指導教員に説明するよう助言。結果的に研究室を変更。
- ・指導教員は優しく、専門の学習も楽しいが、将来の就職を考えると研究室を間違ったようである。→指導教員に説明するよう助言。結果、指導教員の理解を得て、新しい研究室を検索。
- ・研究室を変えたいと言ったら、「もう私たちの関係は終わりだ」と言われた。研究成果

報告書を書いてくれないのではないかと心配。→教員の責任を説明し、問題がある場合には、私に対応することを約束することで安心。現在のところ、大きな問題に発展していない。

### <修学不適應>

- ・先生が出張や研究で忙しく、しっかり研究の相談に乗ってくれない。自分だけで考えたり、資料を集めるのは、難しい。→日本の教育・指導の傾向を説明。研究の相談に乗ってもらえるコツ、研究リソース（人、ネットワーク、資料）の活用について説明。
- ・勉強が難しく、ついていけない。自国ですでに学習したことになっているが、いつも教科書の半分程度で終わるので、大学院の授業がまったくわからない。→最終的に研究領域を変更。
- ・英語だけで大丈夫ということで留学してきたのに、実際研究をするための文献・資料は日本語がほとんどであり、どうすればよいか途方にくれている。→英語での資料を提供するとともに、テーマの変更か日本語の習得かを一緒に考える。最終的にテーマを変更した。
- ・研究室内での役割分担（動物の世話、実験器具の片づけ、掃除）などは、理不尽なことが多く、差別的な言動で対応されることがある（ミスがあるときには、いつも自分のせいにされる）。  
→日本人学生との間の誤解を解くことから始め、助手の方のサポートを得て、指導教員の理解を得るように努力。最終的に指導教員と相互理解を得られないまま帰国。
- ・研究室では自分（当該留学生）がまるで存在していないかのように、他の学生たちがふるまう。  
→日本人学生の傾向について説明したのち、他の学生同士の付き合い方を観察し、様々なアプローチを共に考え、試みている途中。

### <進路相談>

- ・就職をしたいが、指導教員は就職活動に無理解で、推薦状も書いてくれなさそう。  
→推薦状を国際センターの授業担当者として書き、電話等での企業との確認対応を行う。
- ・博士に進学したいが、上級生のほとんどが留年か退学してしまっていて、不安。  
→上級生に何が問題だったのかを聞くこと。一般的な博士課程の利点と課題について説明。特殊な状況についても理解するために、当該領域の他の研究室で博士に進学した人や先生に博士課程進学の前と問題点を聞くように進めた。最終的に進学しなかった。

## 2. 適切な学生の受け入れとミスマッチを防ぐために

- 1) メールが送られてきた際に、以下のチェックリストを参照し、足りない情報を再度



送るようメールの返信をする。

- 2) メール上でのチェックの後、スカイプ等での面接を行う。(本人確認が重要)
- 3) 受け入れに際しては、研究指導に関する「ルール」を示し、それに従うことを確認しておく。(例：毎週のゼミへの参加と随時報告、指導教員の授業への出席など)

#### <受け入れチェックリスト(案)>

	チェック項目	備考
1	履歴書等は信用に足るか	卒業証書等も添付されているか
2	研究計画書がしっかり書いているか	コピーペーストがないか、Web上で検索する
3	広島大学および指導教員を選んだ理由を書いているか	大学名と指導教員名のみ変えて多数の大学・指導教員に送っているケースも多い
4	研究計画について、指導可能なテーマであるか。	これまでの実績だけを見て指導可能と判断すると、学生の将来の研究計画と大きく異なる場合がある
5	信頼できる推薦者と連絡先、推薦状を添付しているか	推薦者と連絡できる場合には、学生の質が担保され、また指導上で問題がある場合にも相談できる
6	研究遂行のための言語能力を証明しているか	研究遂行のために最低限必要な言語とそのレベルを伝えておくと、不満は減少する
7	経済的な問題はないか	研究領域あるいは学生の能力によっては、アルバイトは難しいことを伝える
8	広島大学では、毎月研究成果報告書を指導教員とともに作成し、提出する必要があることを知っているか	広島大学では研究生は学業をしっかり行わなければならないことを認識してもらう。

### 3. 留学生への対応のヒント

- ・緊張した状態で相談に来る留学生への配慮(留学生の特徴や状況に配慮)
- ・伝達する結果が同じでも、納得できるような根拠のある説明をする(明文化されたルールやデータの提示)⇒感情ではなく、論理的に思考させる
- ・丁寧でやさしい言葉と穏やかな口調で説明する⇒学生が心を開き、聞く姿勢になる
- ・適切な助言者への確実な橋渡し

### 4. 支援体制の拡充提案

1) 留学生は信頼できる人と立ち寄りやすい場所に相談に来る。できるだけ多くの窓口を。

●指導教員、留学生専門教育教員、留学生担当職員、留学生支援体制担当教職員の連携

○留学生専門教育教員

- ・各部局の教員であるため、専門の学習についていけない学生の補習授業を行ってくださる先生もいて、これまで助けられた。
- ・研究生が研究室を変更する際に、教員の専門や指導状況について助言を得ること

ができる可能性が高い。

- ・部局内において留学生政策や留学生に関連する制度、支援サービスなどの情報の周知が徹底される。

#### ○留学生担当窓口職員

- ・教員とは違う立場であることで、より客観的・中立的立場からの助言ができる(小中学校では児童・生徒理解とサポート的な助言者として職員の活躍が期待されている)
- ・留学生に関連する制度やシステムについて精通していない教員のフォローにおいて大きな役割を担う。

○留学生問題は、宗教・政治・経済・異文化間関係によって複雑である。学内外の横の連携が非常に大切である。

#### 2) 留学生の危機管理、学業、生活等の責任者について、共通理解を。

●留学生への責任は一体誰にあるのか？指導教員か国際センターか大学なのか。責任者の不在は、責任の不在。連携は必要であるが、生活と修学と出口についての責任について(誰がどこまでの責任をもつか)、大学全体で共通認識を議論し、確定する必要がある。

○留学生は、その特性(家族が日本にいない、法的規制がある)において日本人学生とは異なる。これまでも、事件・事故がある時には部局において会議が開かれ、責任は指導教員にあるのか、受け入れ部局にあるのかが議論がされてきた。ケースにもよるが、大学としての方針は必要。

- ✓ 留学生の不法就労の責任は？(不法滞在については、今後解消される見通し)
- ✓ 事件・事故の加害者・被害者になった場合の対応の責任者は？
- ✓ 留学生が思い病気にかけた場合の対応の責任者は？
- ✓ 指導教員との不適応を周りが支援しないまま、奨学金受給期間以内に博士号が取得できない場合の責任者は？

\*\*\*\*\*

本年度のFD/SDへの感想も良好であったが、改善点としてより参加者が相互に持続的な関係を気づけるようなディスカッション方式を取り入れたFD/SD形態で実施することを来年度提案・実行したい。

#### 4. 留学生支援調査

別章にて、概要報告。

## 5. Face to Face Project

本年度は、5回の Face to Face Project を開催した。これまでは開催にあたって学生有志がコーディネイトおよびファシリテーターとして活躍してくれた。しかし、中心的役割を担ってくれる学生が不在となり、毎回留学生に議論の前のプレゼンを依頼し、その質の高さを保つには非常に大きなエネルギーが必要となるため、授業の一環として実施する形式に変更した。本年度は計7回の Face to Face を実施した。留学生は、日本人学生と本気で難しいテーマを議論する機会として非常に楽しみにしており、実施後は日本人理解が深まったとさらに学習意欲を高めることができた。また、日本人学生側からも戦争と平和や多文化共生について多角的な視点を得ることができたと多くの感想が寄せられ、充実した活動となったといえる。たとえば、ある日本人学生の感想では「日本人女性が「戦争をしない」という事を記入していたのに対して、中国人女性が「争いも必要」と付箋を見ただけでは相反する言葉があつて、びっくりしました。中国人女性は「戦争まではあれだけど・・・」とは言っていましたが、私の周りの中国出身の人々は「戦争は近いうちにあると思わない?」とか、「お年寄りとか子どもとかが犠牲になるのはかわいそうだけど、戦争は時に必要だよ。」とか、「争いはあるかもね・・・」とかを言っており、すごく私は平和ボケしているのではないかと思うようになったと共に中国国内では日本に報道されていない私たちが知ることが困難な動きがあるのではないかと思います。さらに、中国人女性は中国国内の民族に置き換えて多文化共生を考えると、「無理だよ。」とあきらめモードだったことにもなんだかもどかしく感じました」と記載されていた。通常の大学生活ではなかなか話題にのぼらないようなことを議論でき、多くを感じ取っていることが読み取れる。

課題として、ここにあげられたもどかしさや「違い」について追及を授業で学術的にフォローすることである。留学生に対しては次の授業で引き続きこのフォローができるのであるが、日本人学生については本授業はボランティア参加であるため、個々人の継続的な学習に頼るしかない。

以下、7回のテーマと内容について記載する。

### ① テーマ：私の文化（ルール）

日 時：2012年4月18日(木) 14時45分-16時15分

場 所：教育学部 K308 使用言語：英語

活 動：留学生と日本人学生が文化の差異について議論し、異文化理解を図る

### ② テーマ：多文化共生社会を考える

日 時：2012年6月19日(火) 10時30分-12時00分

場 所：教育学研究科 K棟 K109 使用言語：日本語

活動：留学生と日本人学生が多文化共生社会のあり方についてグループディスカッション、全体討論を行う。

③ テーマ：グローバリゼーションとアイデンティティ

日時：2012年7月10日(火) 10時30分-12時00分

場所：教育学研究科 K棟 K109 使用言語：日本語

活動：留学生と日本人学生がグローバリゼーションとアイデンティティについてグループディスカッション、全体討論を行う

④ テーマ：私の文化（ルール）

日時：2012年10月18日(木) 14時45分-16時15分

場所：教育学 K308 使用言語：英語

活動：留学生と日本人学生が文化の差異について議論し、異文化理解を図る

⑤ テーマ：学校の思い出

日時：2012年11月15日(木) 14時45分-16時15分

場所：教育学 K308 使用言語：英語

活動：留学生と日本人学生が学校の思い出の話し合いから文化の差異とその背景について議論し、異文化理解を図る

⑥ テーマ：メディアと私たち

日時：2012年12月13日(木) 14時45分-16時15分

場所：教育学 K308 使用言語：英語

活動：留学生と日本人学生が各国のメディアとその影響を話し合い、各国の事情を理解することで、国際理解を深める

⑦ テーマ：新聞から見る日本事情

日時：2013年1月22日(火) 10時30分-12時00分

場所：教育学 K214 使用言語：日本語

活動：留学生と日本人学生が日本の新聞を題材としてグループで話し合い、日本事情（内容と報道）を多角的に考察し、国際理解を深める

## おわりに

本年度の活動を踏まえ、来年度に向けて以下の課題を取り組み始めている。まず第一に、留学生指導担当という役割を明確に位置づけ、国際交流部門との連携システムを明文化する。第二に、全学的な留学生支援体制を整備するために、ここ2年開催してきた留学生支援ネットワークおよび留学生支援担当者教職員会議を部会として設置する。第三に留学生の緊急時にいかに大学が組織的に対応するのかという緊急時対応マニュアルの作成と関係者への周知である。

大学の国際化には、留学生支援が必須事項であることを全学の教職員が認識し、ボランティア精神と責任感だけでなく組織的な留学生支援システムと有機的なネットワークの形成と拡充が必要である。残された課題は多いが、来年度引き続き取り組んでいくこととする。

# 平成 24 年度 広島大学留学生の学習と生活に対する支援調査結果概要報告

国際センター国際教育部門 准教授 中矢礼美

## はじめに

本報告は、平成 24 年 12 月に実施した本学の留学生対象のアンケート調査「広島大学留学生の学習と生活に対する支援調査」の結果を集約・分析したものである。

広島大学には 1000 人前後の留学生が在籍しており、彼らが直面する生活・修学上の多様な課題を解決すべく、留学生支援ネットワークは 1, 2 ヶ月に 1 度の連絡会議を開催し、また各セメスターに一度は全学の留学生支援担当者会議を開催して、情報共有および支援体制の構築に努めている。そこで議論される内容は多岐にわたり、効果的効率的な留学生支援のためには状況把握が重要であるという共通認識のもと、今年度も留学生に対する支援調査を実施することとなった。

本調査の内容および構成は、留学生支援ネットワークのメンバーによって作成され、調査票は国際センター国際交流グループより全留学生に配布された。

平成 24 年度の留学生支援ネットワークメンバーは以下のとおりである。

中矢 礼美	国際センター国際教育部門 准教授
横山 美栄子	ハラスメント相談室 教授
北仲 千里	ハラスメント相談室 准教授
岡本 百合	保健管理センター 准教授
小島 奈々恵	保健管理センター 研究員
田中 孝憲	キャリアセンター 主査
車地 友理	キャリアセンター
棚田 孝志	国際センター国際交流部門 専門員
甲田 政道	国際センター国際交流部門 主査
小倉 亜紗美	国際センター国際交流部門 研究員

## I. アンケートの調査方法と内容

アンケート調査票は広島大学に在籍する全留学生（1081 名、2012 年 11 月現在）を対象とし、所属部局より直接あるいは指導教員を経由して配布した。回答は、学内便にて回収を行い、回収数は 497（有効回答数 495）であった。回収率は 45.9%と 2003 年以降の調査の中で最も高い比率となった。

アンケート調査紙は日本語と英語を併記した。

アンケートの内容は、5 つに分かれており、1) 一般的な質問、2) コミュニケーショ

ン言語および学習について、3) 指導教員との関係について、4) 留学生支援について、5) 留学生による生活・修学に対する満足度について、である。

回答は、複数選択式、5点法のリカートスケール方式など、選択式を採用した。ただし、より具体的な意見を汲み取るために自由記述欄も設けた。

回答者は、質問によって異なっていること、一部の質問に回答していないなどの無効回答などもあるために、質問によって全回答者数に違いがある。

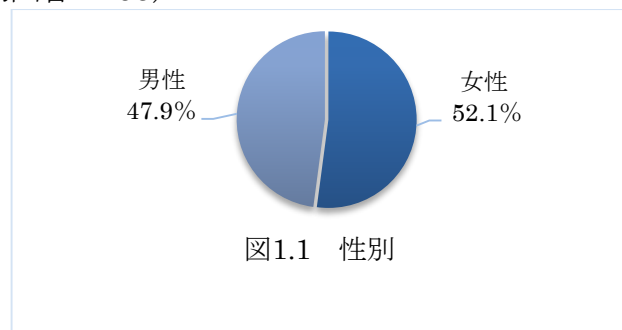
## II. 統計分析の方法について

データはすべて統計的に処理されており、ここに掲載した検定結果は分散分析の結果である。多くの場合を理系と文系の研究科に所属する学生の間での違いとして分析を行っている。なお、ここでは留学生の自己半判断により理系文系を区分しているが、「不明」と回答されているものについては、「その他」に記載された専攻と所属部局から、文学部・文学研究科、教育学部・教育学研究科、法学部・法学研究科、経済学部・経済学研究科、国際開発研究科、国際センターを文系とし、それ以外の部局については理系とした。

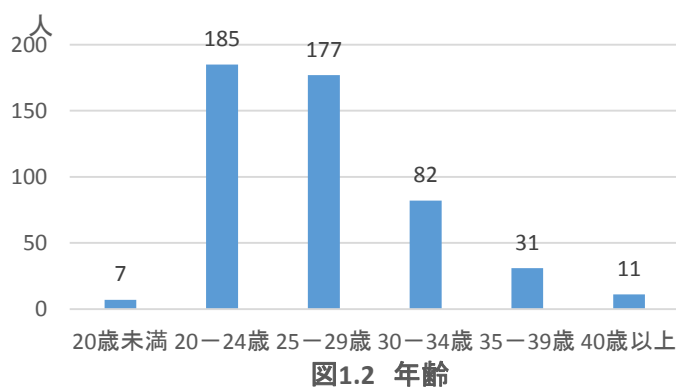
## III. アンケート調査結果の分析

### 1. 一般的な質問

#### Q1.1 性別 (有効回答 495)



#### Q1.2 年齢 (有効回答 444)



Q1.3 学籍 (有効回答 494)

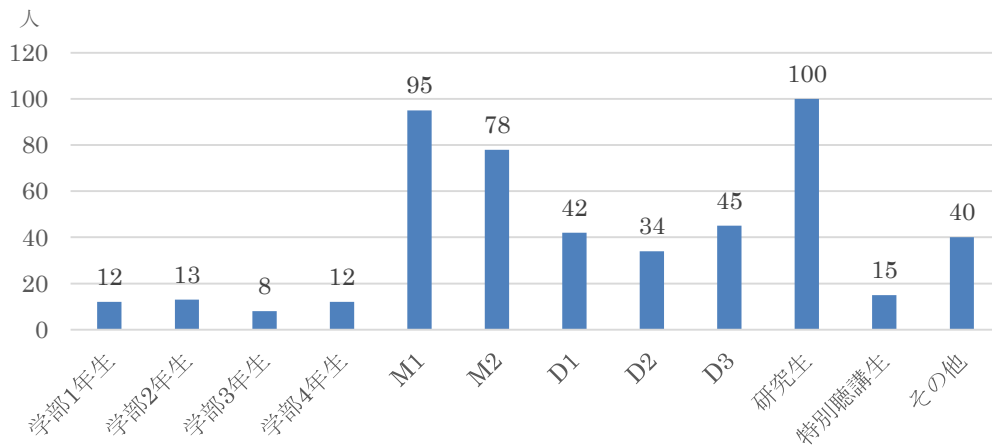


図1.4 学籍

Q1.4 出身国・地域 (有効回答 495)

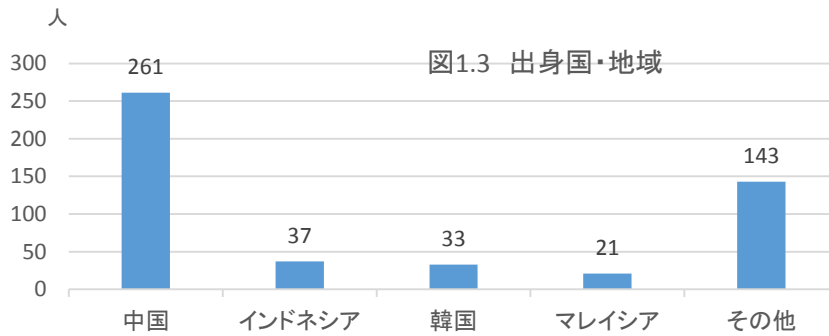


図1.3 出身国・地域

Q1.5 所属 (有効回答 495)

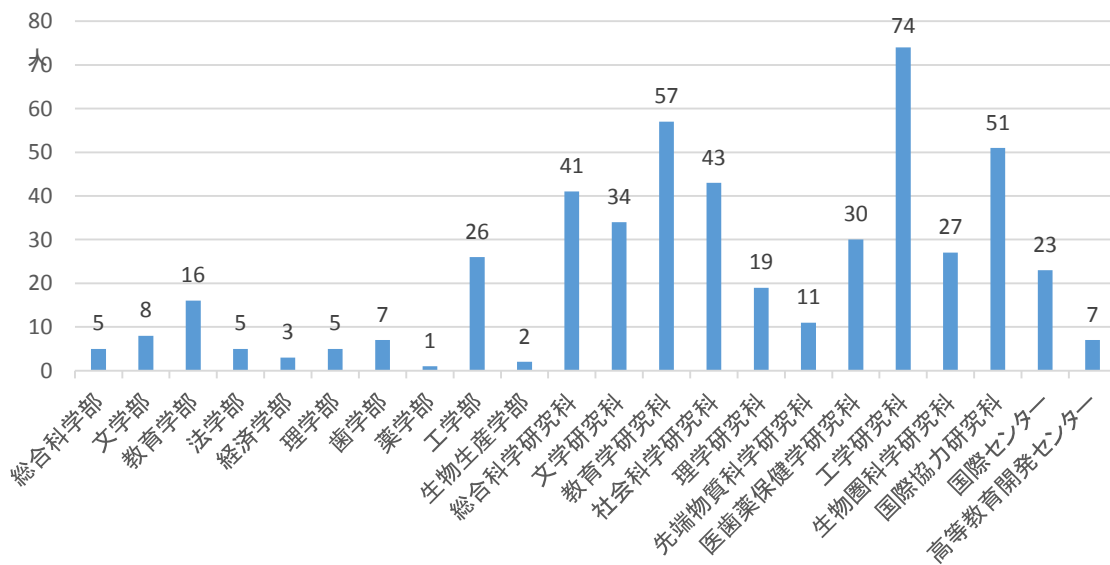


図1.5 所属

Q1.6 私費・国費 (有効回答 487)

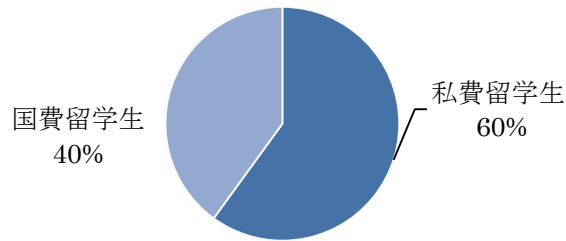


図1.6 国費私費

Q1.7 専門 (有効回答 470)

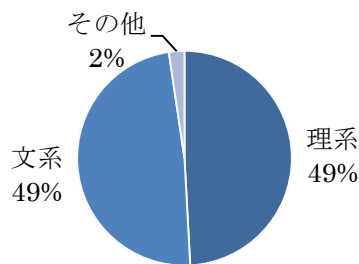


図1.7 専門

Q1.8 広島大学での在籍年数 (有効回答 490)

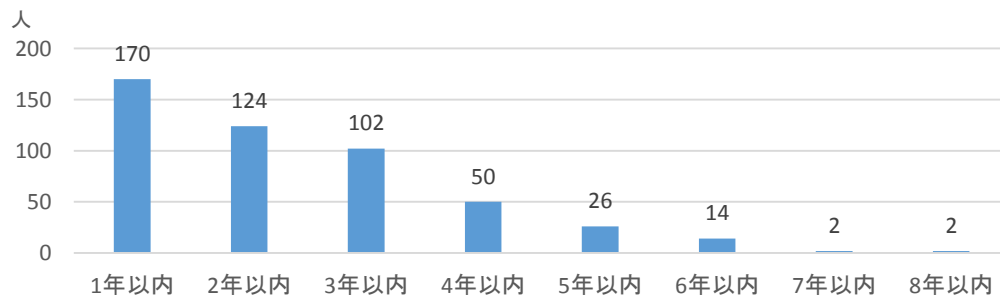


図1.8 在籍年数

2. コミュニケーション言語と学習について

Q2.1 あなたの日本語能力はどのくらいですか？

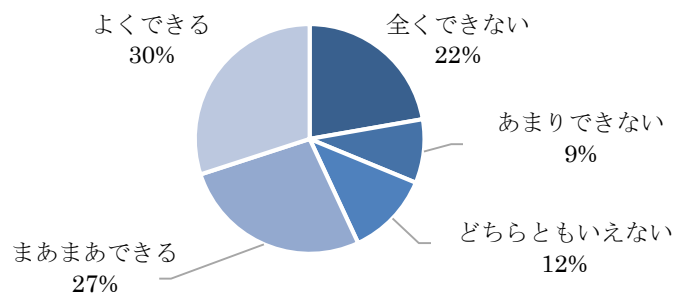


図2.1.1 教科書を読む(日本語)



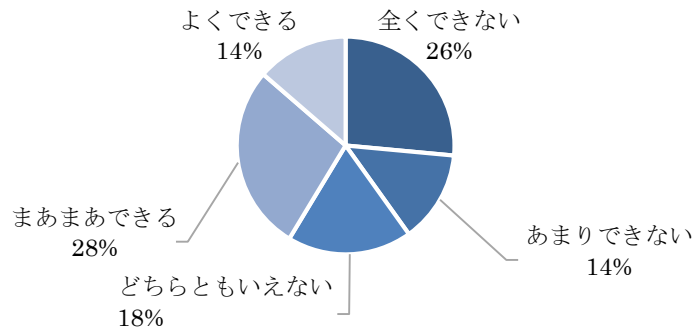


図2.1.2 論文やレポートを書く(日本語)

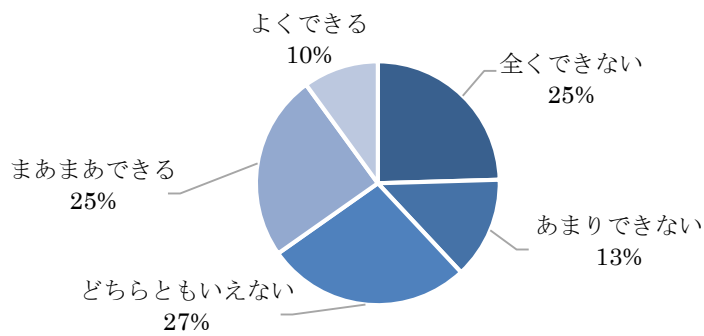


図2.1.3 専門について議論する(日本語)

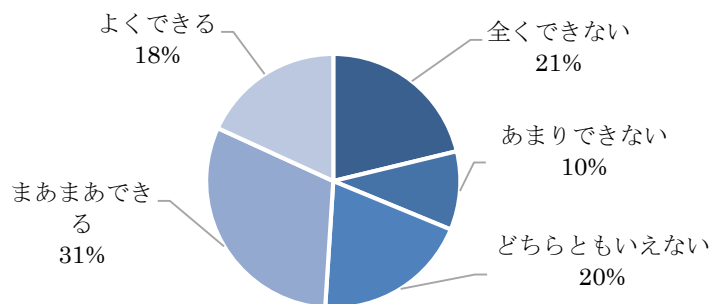


図2.1.4 講義・授業を理解する(日本語)

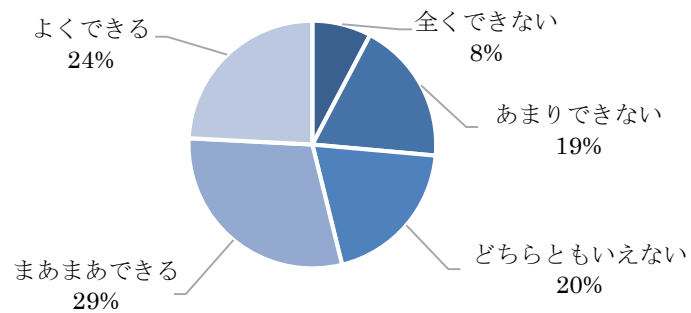


図2.1.5 日常的な会話(日本語)

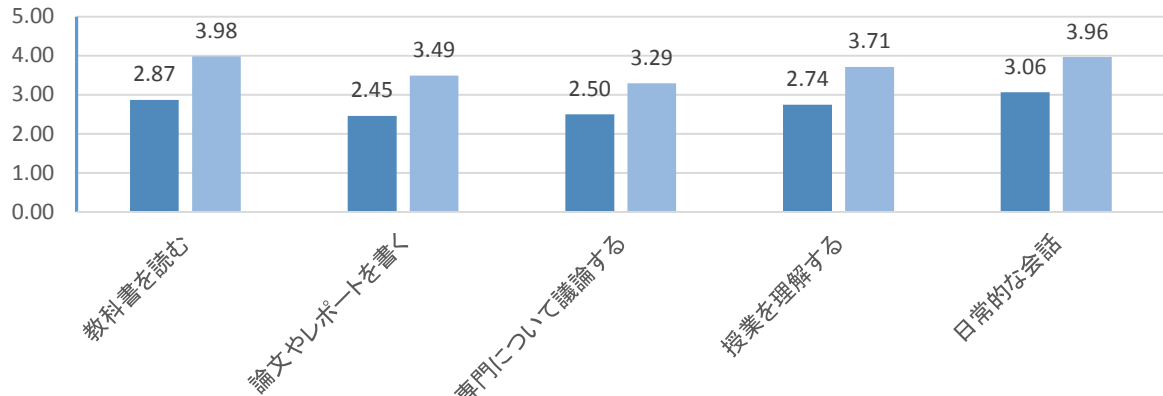


図2.1.6 専門別日本語能力

■ 理系 ■ 文系

図 2.1.1～2.1.5 の分散分析の結果、理系・文系による有意な差が見られた。理系の学生に比べて文科系の学生がすべての側面において高い日本語能力を持つという結果が得られた。

		独立サンプルの検定								
		の検定		2 つの母平均の差の検定						
		F 値	有意確率	t 値	自由度	有意確率 (両側)	平均値の差	差の標準誤差	差の 95% 信頼区間	
									下限	上限
教科書を読む (日本語)	等分散を仮定する。	28.440	.000	-8.501	453	.000	-1.110	.131	-1.367	-.854
	等分散を仮定しない。			-8.498	441.340	.000	-1.110	.131	-1.367	-.853
論文やレポートを書く (日本語)	等分散を仮定する。	9.552	.002	-8.466	453	.000	-1.033	.122	-1.273	-.793
	等分散を仮定しない。			-8.465	448.786	.000	-1.033	.122	-1.273	-.793
専門について議論する (日本語)	等分散を仮定する。	5.022	.026	-6.871	451	.000	-.796	.116	-1.024	-.568
	等分散を仮定しない。			-6.869	448.748	.000	-.796	.116	-1.024	-.568
授業を理解する (日本語)	等分散を仮定する。	9.815	.002	-8.001	452	.000	-.972	.121	-1.210	-.733
	等分散を仮定しない。			-7.998	447.404	.000	-.972	.121	-1.210	-.733
日常的な会話 (日本語)	等分散を仮定する。	7.760	.006	-8.338	454	.000	-.899	.108	-1.111	-.687
	等分散を仮定しない。			-8.338	449.458	.000	-.899	.108	-1.111	-.687

Q2.2 あなたの英語能力はどのくらいですか？

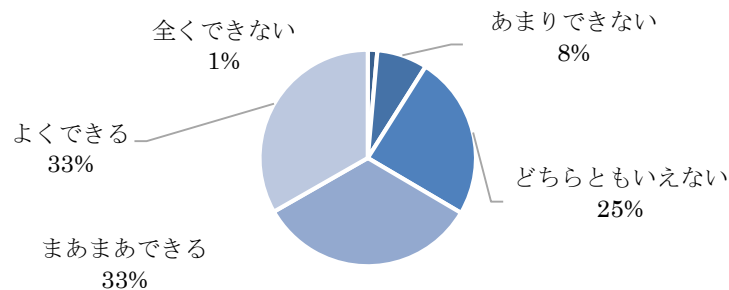


図2.2.1 教科書を読む(英語)

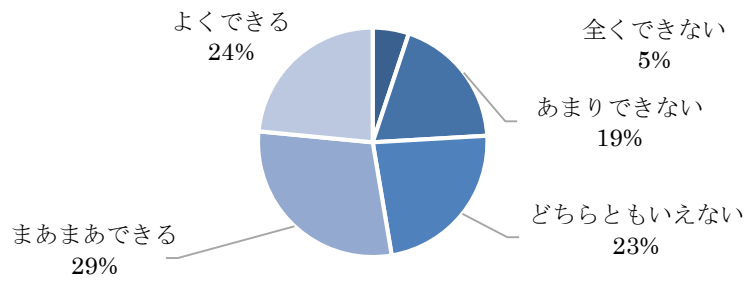


図2.2.2 論文やレポートを書く(英語)

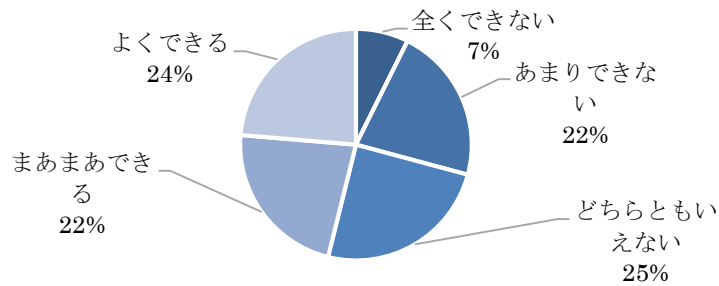


図2.2.3 専門について議論する(英語)

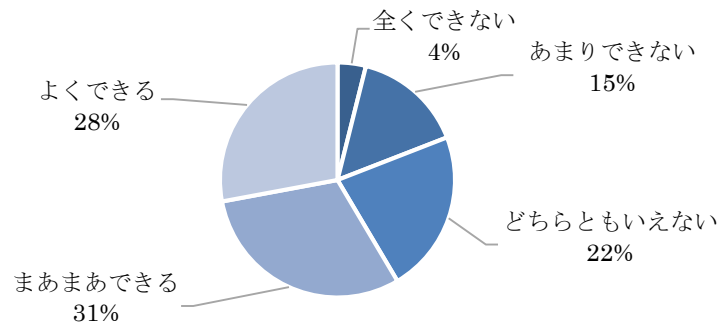


図2.2.4 授業を理解する(英語)

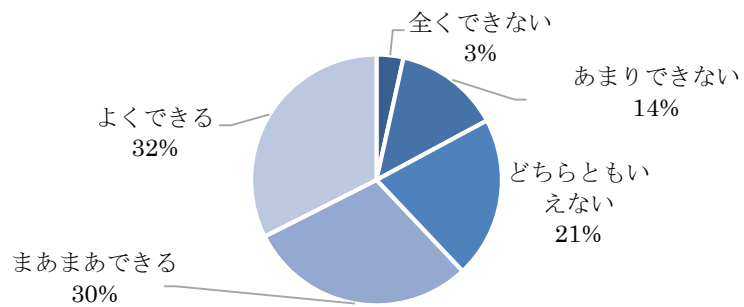


図2.2.5 日常的な会話(英語)

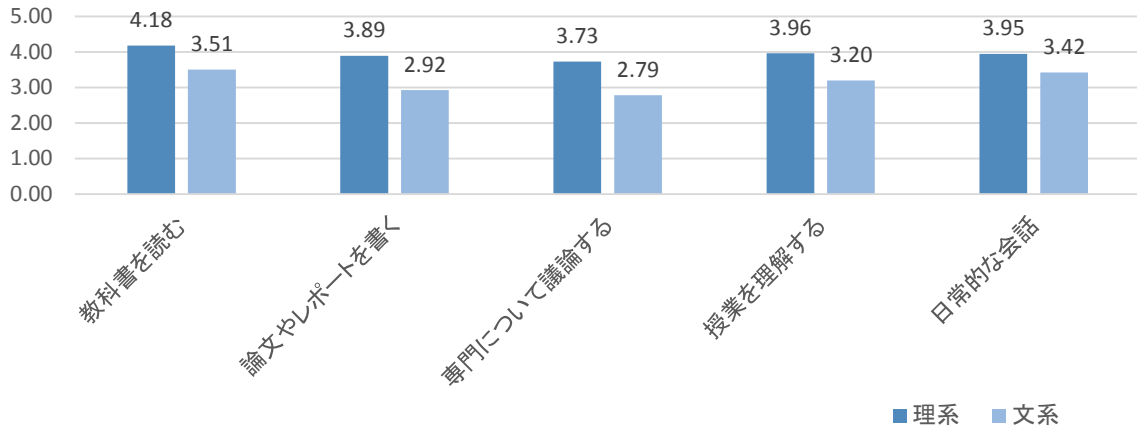


図2.2.6 専門別英語能力

図 2.6～2.10 の分散分析の結果、下記のとおり、理系・文系による有意な差が見られた。文系の学生に比べて理系の学生がすべての側面において高い英語能力を持つという結果が得られた。

		独立サンプルの検定								
		の検定		2 つの母平均の差の検定						
		F 値	有意確率	t 値	自由度	有意確率 (両側)	平均値の差	差の標準誤差	差の 95% 信頼区間	
									下限	上限
教科書を読む (英語)	等分散を仮定する。	4.207	.041	7.489	452	.000	.669	.089	.494	.845
	等分散を仮定しない。			7.480	445.239					
論文やレポートを書く (英語)	等分散を仮定する。	2.031	.155	9.462	452	.000	.967	.102	.766	1.168
	等分散を仮定しない。			9.453	447.677					
専門について議論する (英語)	等分散を仮定する。	.012	.914		452	.000	.949	.110	.734	1.165
	等分散を仮定しない。			8.654	450.830					
授業を理解する (英語)	等分散を仮定する。	6.941	.009	7.310	451	.000	.759	.104	.555	.963
	等分散を仮定しない。			7.298	441.977					
日常的な会話 (英語)	等分散を仮定する。	2.489	.115	4.961	452	.000	.527	.106	.318	.735
	等分散を仮定しない。			4.956	448.147					

Q2.3 あなたは、論文の読み書きでおもにどの言語を使いますか？ (数名が複数回答)

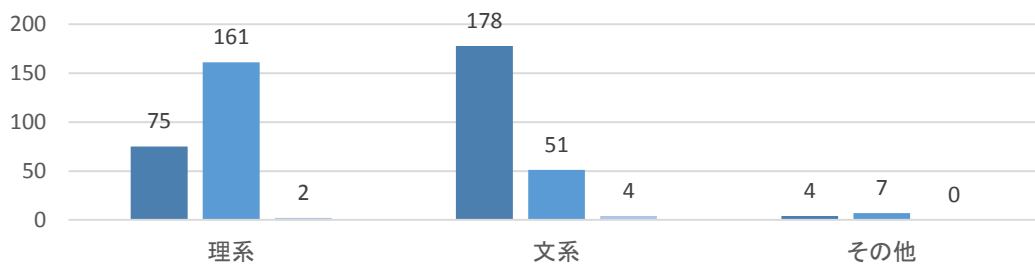


図2.3 論文の読み書き

■日本語 ■英語 ■その他

Q2.4 あなたは、指導教員との会話でおもにどの言語を使いますか？（数名が複数回答）

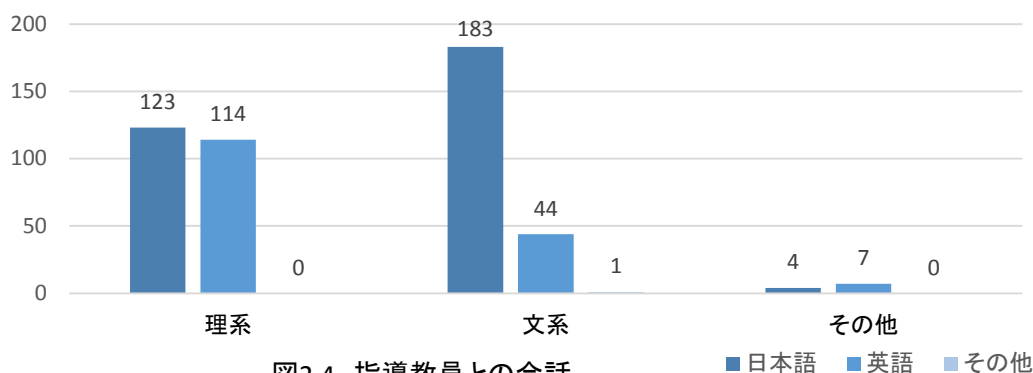


図2.4 指導教員との会話

Q2.5 あなたは、研究室の人たちとの会話でおもにどの言語を使いますか？（数名が複数回答）

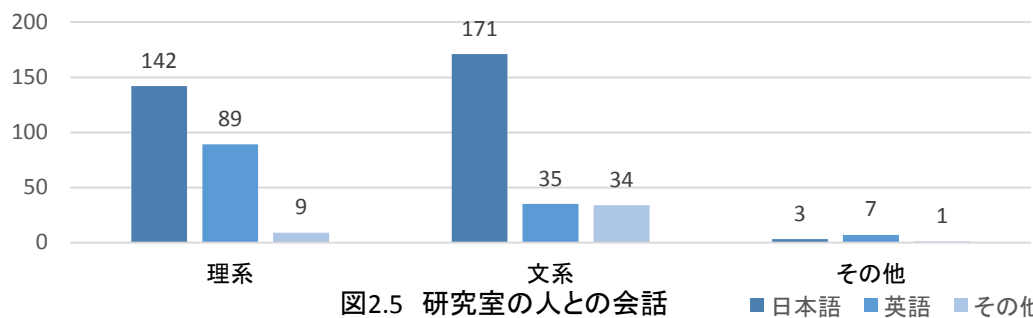
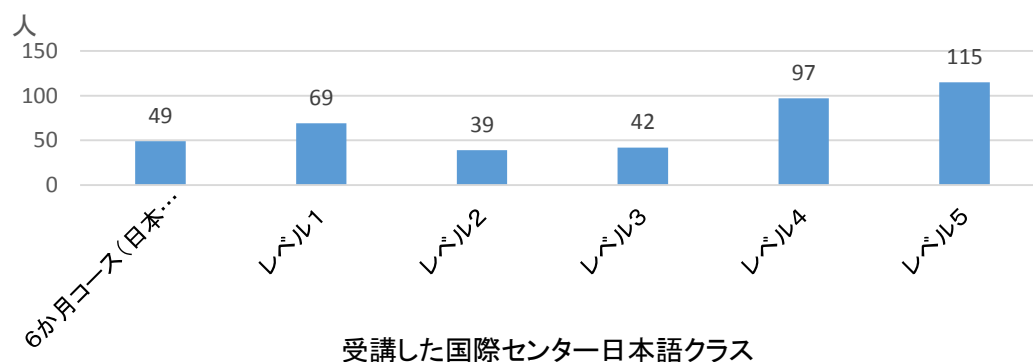


図2.5 研究室の人との会話

図 2.3～2.5 に示されたように、理系の学生の方は文系の学生よりも論文の読み書きは圧倒的に英語を使っているが、指導教員との会話では日本語を使う割合が英語と同じ程度である。また、研究室の人との会話ではさらに日本語を使う人が多いことが分かる。理系の学生は、英語で研究を進めるものの会話においては日本語が使われる状況にあることから、日本語学習の必要性が予想される。「研究室の人との会話」において「その他」の言語と回答しているケースが多いのは、同国出身者との会話によると考えられる。

Q2.6 あなたが広島大学で今まで参加した国際センターの日本語コースを教えてください。



受講した国際センター日本語クラス

Q2.7 あなたの日本語の勉強についてどの意見があてはまりますか？（複数回答）

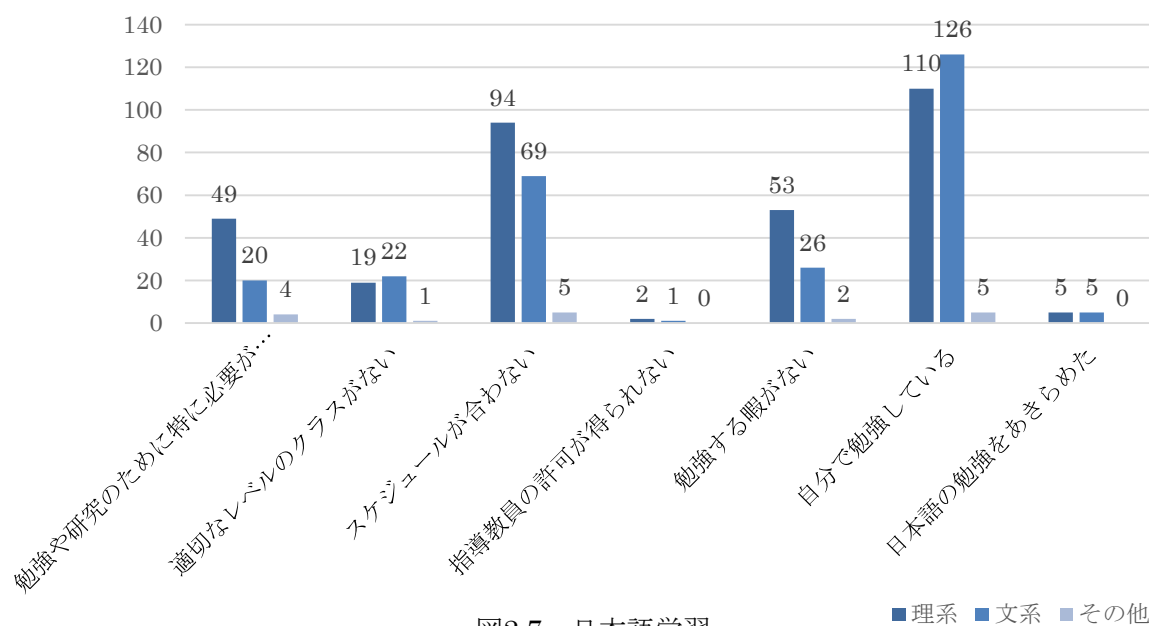


図2.7 日本語学習

図 2.7 より、理系の学生は勉強や研究に特に必要としない学生は 49 名。理系・文系共に、主に「スケジュールが合わない（理系 94 名、文系 69 名）」という理由によって、「自分で勉強している（理系 110 人、文系 126 人）」留学生が多い。「その他」の理由をあげる学生は 66 人おり、その多くが「大学院試験のために後半の日本語授業を受講できないから」をあげていた。

### 3. あなたと指導教員との関係について

Q3.1 あなたは、指導教員のことをどのようにして知りましたか。

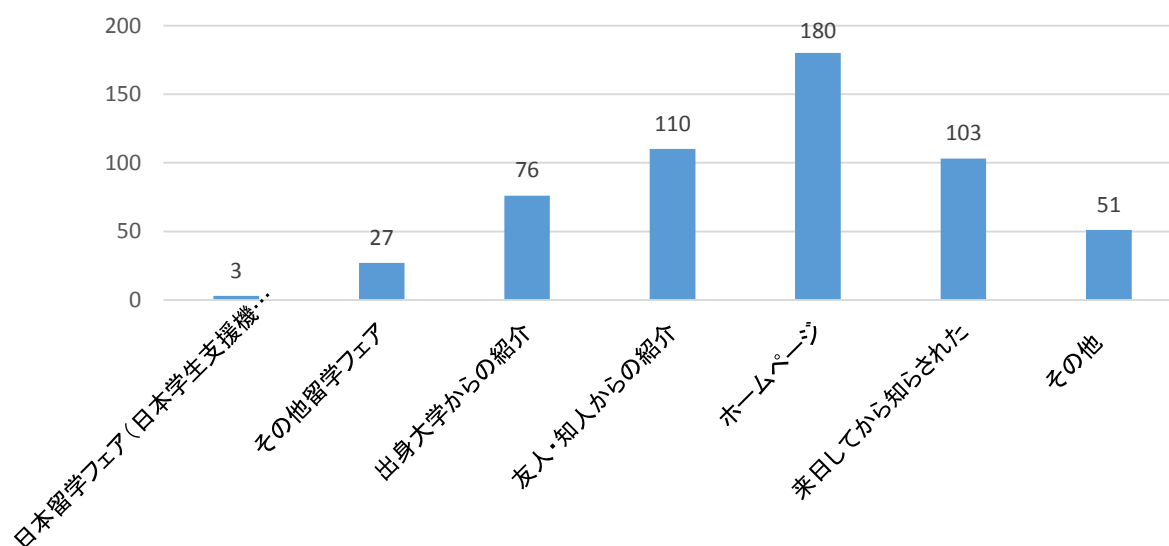


図3.1 指導教員を知った機会

### Q3.2 あなたは来日前に指導教員とどのような相談をしましたか？（複数回答可）

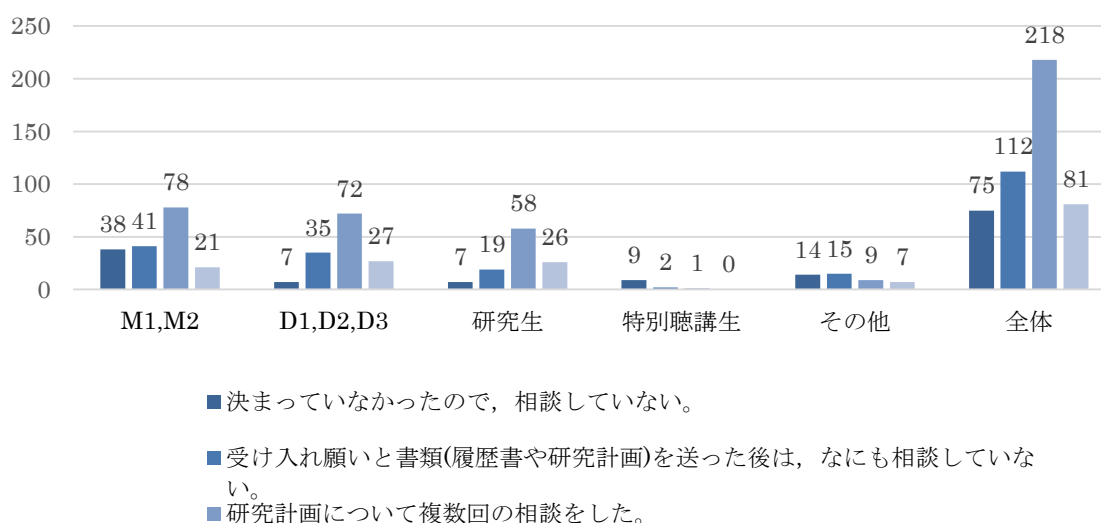


図3.2 来日前の相談

図3.2では、指導教員と来日前に相談をする必要がないと考えられる学部生の回答は除いている。「決まっていなかったので、相談していない」という回答が全体で75名も存在し、「受け入れ願いと書類を送った後は、何も相談していない」という回答も112名と非常に多い。研究室および指導教員とのミスマッチは、留学生にとって最も大きな問題であり、予防のためには事前の相談が不可欠である。受け入れ願いと研究計画書などの提出を受け入れられた時点で留学生は、指導教員が全面的に自分の研究計画を受け入れてくれていると思う一方で、指導教員側は、「来てからの話し」と考えていることもあり、相互不理解が入学時から始まっている可能性が高い。受け入れ前の複数回の相談（確認）を実施すべきである。

### Q3.3 指導教員との関係において、次のうちどれがあなたにあてはまりますか？（複数回答可）

概ね指導教員に満足しているようであるが、「将来を考えると現在の研究内容では、不安がある」という回答者が51人と多い。その他の問題については、自由記述で述べられているように、深刻な問題である場合もあり、各相談窓口での対応が求められる。

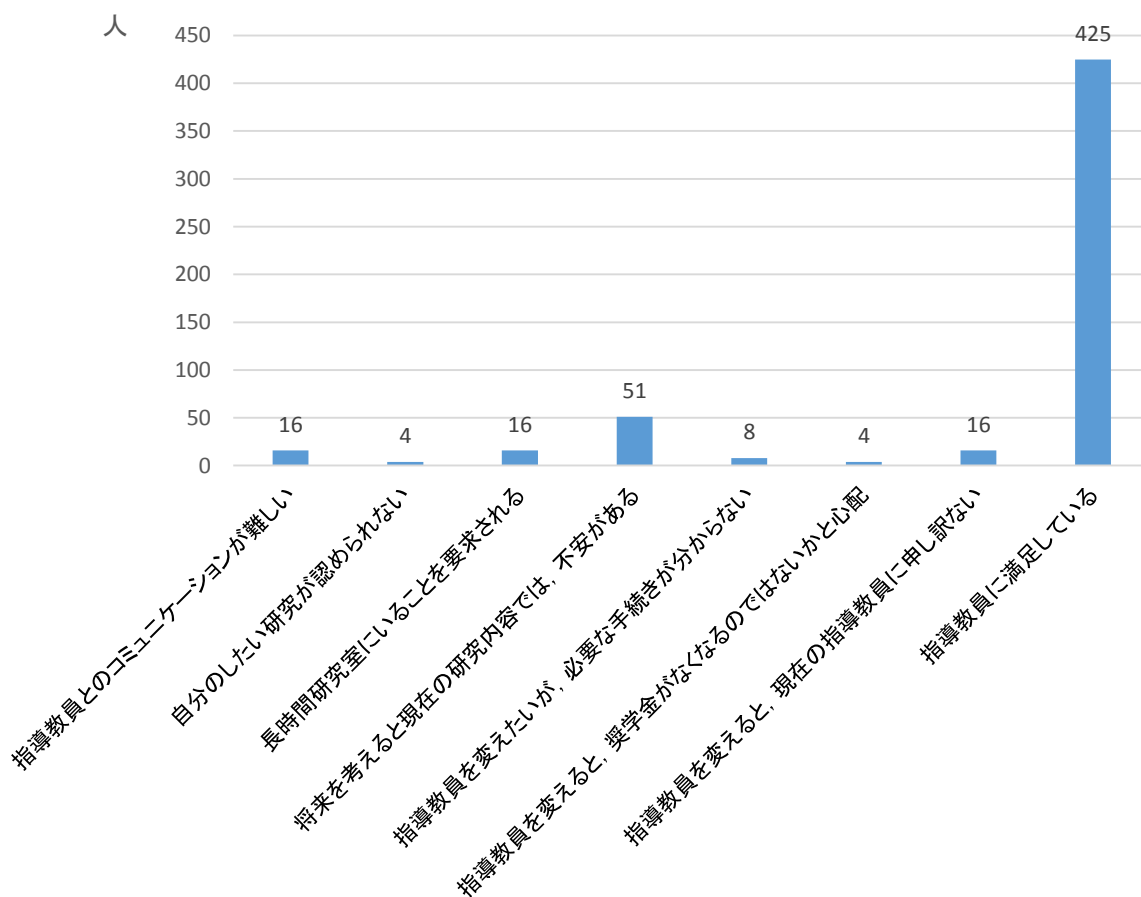


図3.3 指導教員との関係

#### 4. 学生支援について

##### 4.1 学生生活の中で困っていることがありますか。(複数回答可)

「経済的な悩み」が 228 人と非常に多く、ついで「学習や研究のこと」「ことばや習慣」の悩みが 185 人、183 人と非常に多い。困っていることについて、有意さがあったのは、図 4.1.1 に示すように、私費国費別の「経済的なこと」であった。

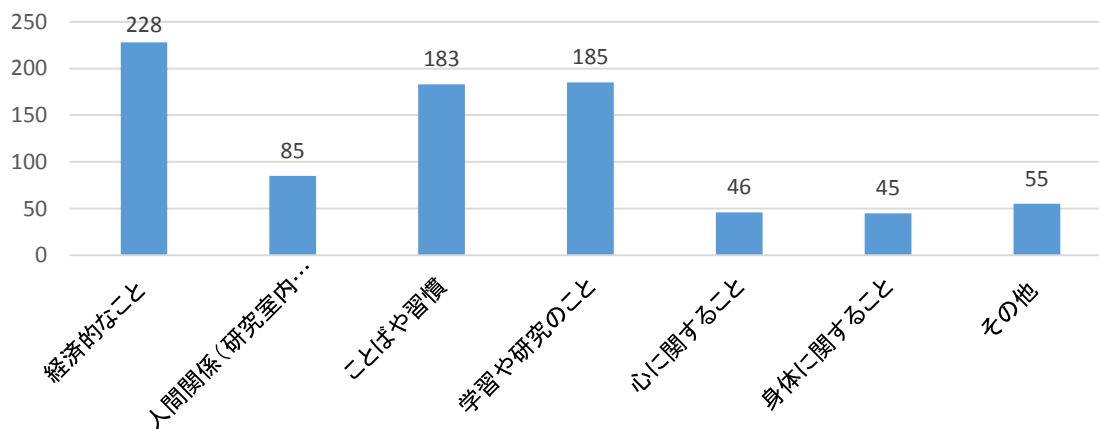


図4.1 困っていること



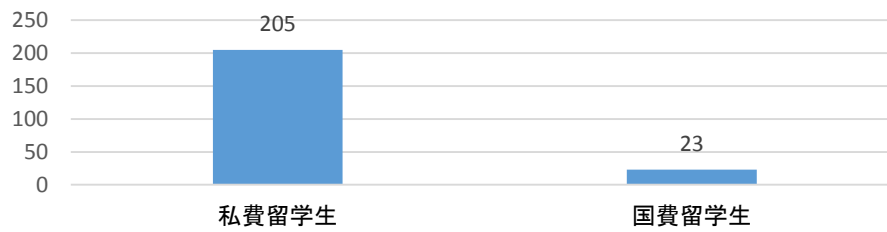


図4.1.1 私費国費別 困っていること:「経済的なこと」

Q4.2 困ったことがあるときには、おもに誰に相談しますか。(複数回答)

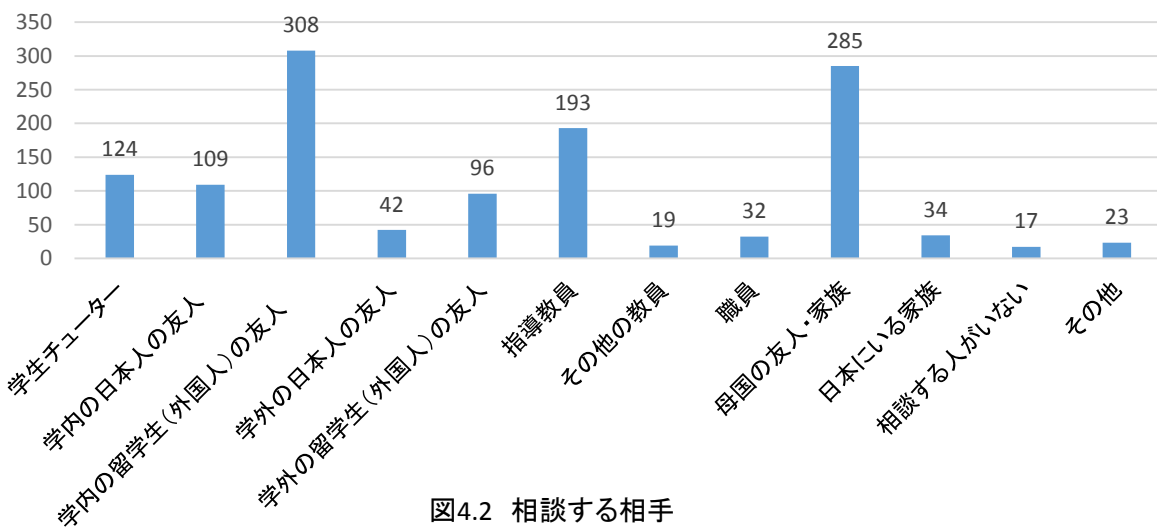


図4.2 相談する相手

悩みの相談相手は学内の留学生および母国の友人・家族が非常に多い。ついで指導教員も 193 人と多い。

Q4.3 学生生活支援のための次の相談窓口があることを知っていますか？相談したことがありますか？

ピアサポートルーム、アクセシビリティセンター、なんでも相談窓口の認知度は非常に低い。部局留学生専門教育教員についても、認知度が低い、配置されていない部局があることも影響していると考えられる。

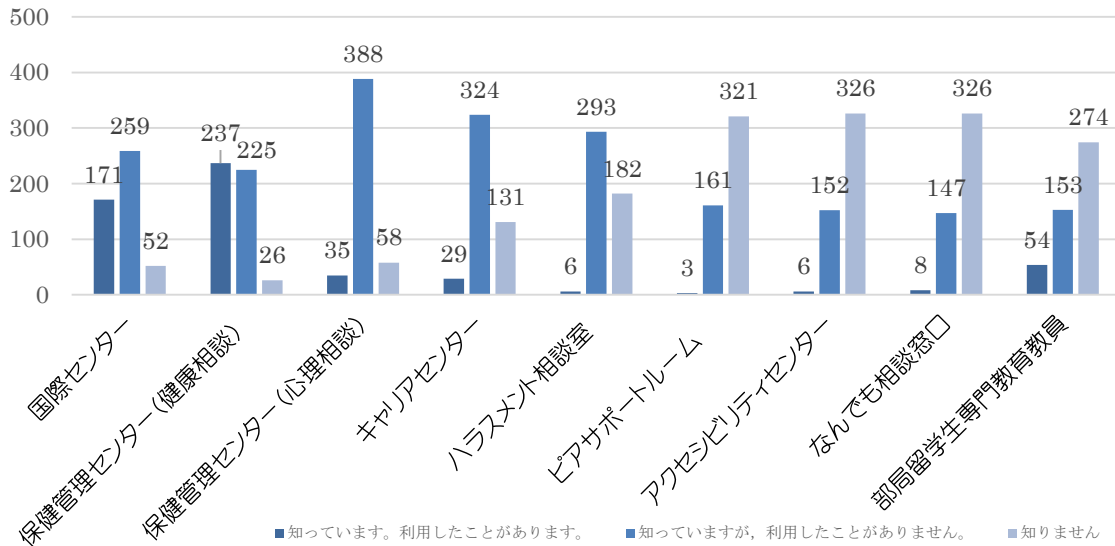


図4.3 窓口認知および利用

Q.4.4 下記の窓口を利用したことがある方にお尋ねします。下記の窓口での支援に満足されましたか？

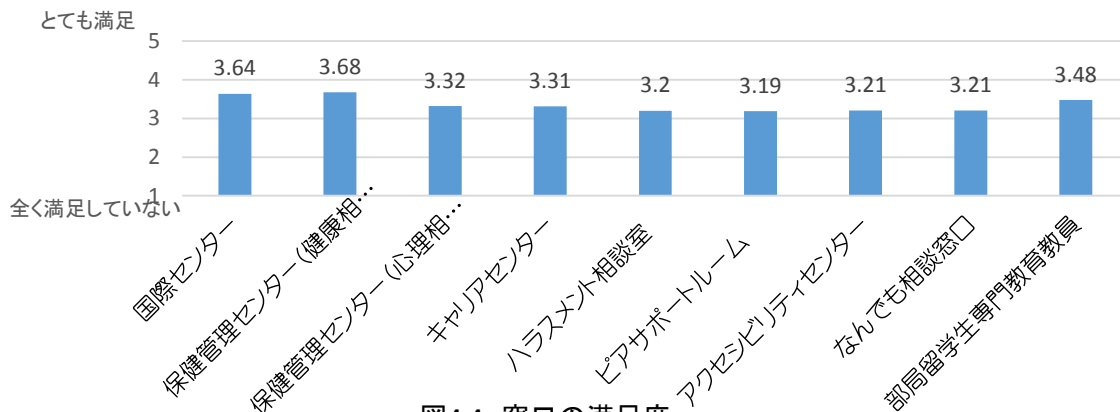


図4.4 窓口の満足度

Q. 4.5 悩みごとがあったとき、カウンセリングを受けようと思いますか。

(有効回答者数 490 名)

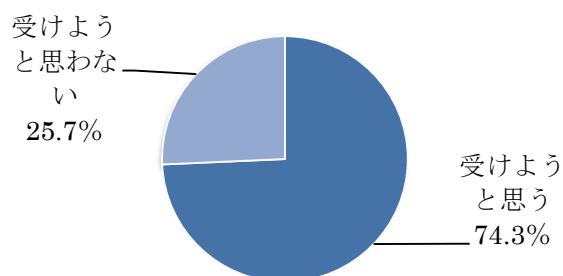


図4.5 カウンセリングを受けようと思うか

Q.4.6 「2. 受けようと思わない」と回答した理由（自由記述回答）

概ね、次のような理由をあげていた。

- 友人に相談する。
- 個人的な話はしたくない。
- 面倒をかけたくない。
- 相談に行く時間が取れない。
- 言語が通じない不安がある。

Q.4.7 学生定期健康診断が、毎年4月のみに行われていることを知っていますか。」

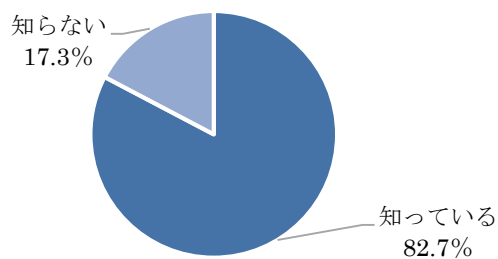


図4.7 健康診断は4月のみ

Q.4.8 学年度内（4月～3月）に健康診断を受けていなければ、健康診断証明書が発行されないことを知っていますか。（有効回答者 491名）

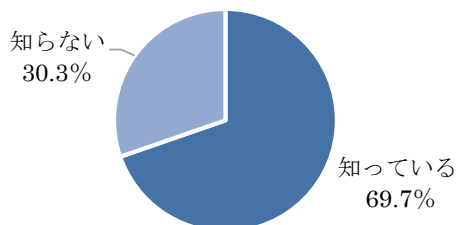


図4.8 健康診断証明書の発行

Q.4.9 あなたは日本の企業への就職を希望していますか。（回答者 485名）

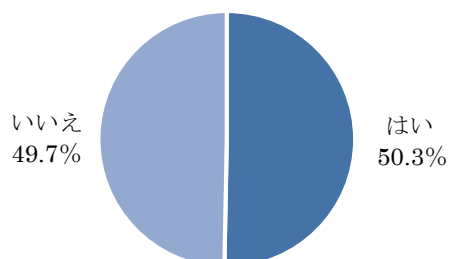


図4.9 日本就職希望

Q.4.10 「はい」と回答した方は、職活動のサポートに必要なことは何ですか。(複数回答)

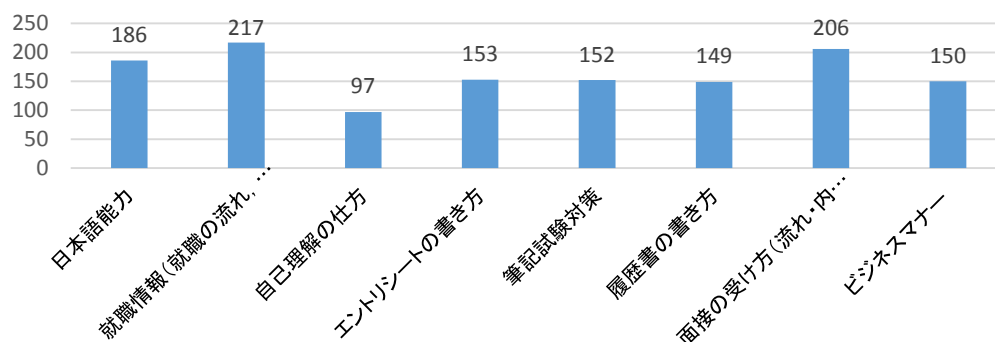


図4.10 就職活動サポートニーズ

## 5. 広島大学における学習・生活に関する満足度

Q5. 広島大学に関する以下の内容について、あてはまる回答の数字に○をしてください。

表1 広島大学における学習・生活に関する満足度 (人/%)

	1. 全く そう 思わ ない	2. そう 思わ ない	3. どちら とも 言 えない	4. そう 思 う	5. と ても そう 思 う	有効回 答数 (%)	平均値
指導教員は、研究について適切な助言をしてくれる	6	8	39	134	294	481	4.46
	1.2	1.7	8.1	27.9	61.1	100	
研究室の人たちは、いろいろな助言をしてくれる	5	17	94	185	178	479	4.07
	1	3.5	19.6	38.6	37.2	100	
所属事務の人たちは、いろいろと助けてくれる	2	10	55	209	212	488	4.27
	0.4	2	11.3	42.8	43.4	100	
カリキュラムは、わたしの希望した通りのものである	5	21	155	194	105	480	3.8
	1	4.4	32.3	40.4	21.9	100	
授業の内容は分かりやすい	8	37	148	208	84	485	3.66
	1.6	7.6	30.5	42.9	17.3	100	
広島大学 HP から必要な情報は収集しやすい	8	30	122	204	114	478	3.82
	1.7	6.3	25.5	42.7	23.8	100	
学生チューターは手助けをしてくれる	22	33	88	168	163	474	3.86
	4.6	7	18.6	35.4	34.4	100	
広島大学での私の研究はうまくいっている	7	16	122	212	130	487	3.91
	1.4	3.3	25.1	43.5	26.7	100	
総合的に判断して、大学の授業や研究に満足している	3	17	72	218	177	487	4.13
	0.6	3.5	14.8	44.8	36.3	100	
総合的に判断して、日常の生活に満足している	2	17	98	230	145	492	4.02
	0.4	3.5	19.9	46.7	29.5	100	

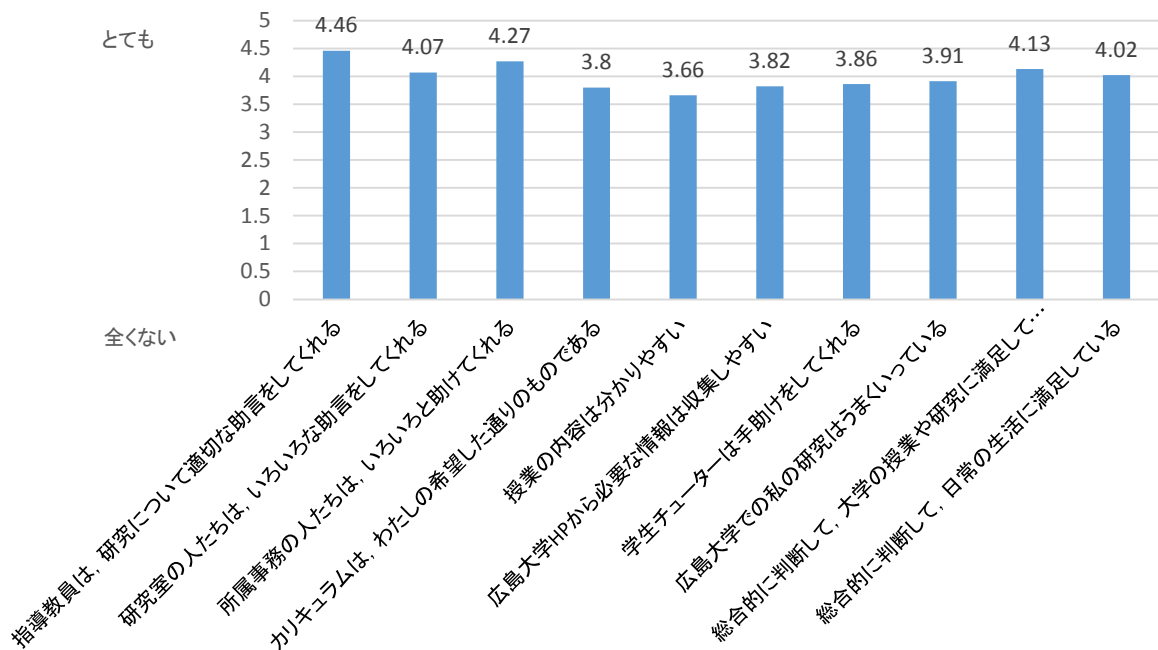


図5 留学生満足度平均

\* なにか質問、相談、意見がありましたら、書いてください。直接返信が必要な方は、名前とメールアドレスをお書きください。あなたの名前とメールアドレスは、書かれた質問や相談、意見について連絡するためにのみ利用させていただきます。他の目的のために利用することはありません。

経済（奨学金、授業料、アルバイト、就職など）について

- 奨学金をもらいにくいです。
- 奨学金については、学内選考不採用となった場合、その不採用の理由とか教えてくれば良いと思っております。学内選考の基準はよく分からない、学業成績のみですか、研究業績含むですか。また、奨学金の目的は優秀な学生さんにあげるか、経済状況困難な学生さんにあげるのか不明と思います。どちらでも、公平、公開、公正して下さい。以上個人意見です。悪意がありません。
- 奨学金はむずかしい
- 就職について、外国人の本当に積極的に採用している企業の情報をまとめて頂きたいのです。
- 研究生として奨学金、授業料免除はできません。研究生は正式な学生ではないので、心理的なストレスはもっと多いです。進学、アルバイト、人間関係、親の方に心配されて、苦しいです。理学の研究生は特別大変です。問題をたくさんしないと、院試は合格しがたいです。もし最後の答えはちっとも相違ったら採点されません。経済の方は難しいならば、アルバイトしかないです。時間が物足りません。不合格ならば、後はアルバイトしか続きません。悪いサイクル（循環）に入ってしまった。私は学力不足ですが、ずっと頑張っています。理学の研究生は少ないです。ほとんどの時間はただ自分1人勉強します。とても大変です。日本語はよくないです。ご静聴、ありがとうございます。（※連絡先の記載あり）
- 学費の免除のこと、もし相談できるなら、相談したいです。学費の免除がくれなかったら、本当に困ります。（※連絡先の記載あり）

- キャンパス内に留学生ができるアルバイトがあってほしいです。日本語が良くできないとアルバイトをするところが非常に少ないです。
- 大学の定員割れとともに留学生が多くなりつつあると思いますが、その代わり奨学金は少ないです。中国では、博士後期に入ったら、全ての大学がそうとは思いませんが、いい大学は学費不要だけでなく、金銭的に協力してくれます。ここでは、博士前期・後期の院生を完全に一緒に取り扱い、国内のドクターよりメリットが何なのかが分からなくなりました。日本の博士はやはり企業とのミスマッチが存在し、特に文系は博士卒業して企業に入ること自体をおかしく思ってますし、それなりの協力してくれる事業もないです。そればかりか、学費免除の手続がますます煩わしくなり、完全に中国の学生向けになったような気がします。
- 研究を専念できるように、留学生の経済と生活を最大限にサポートしてほしいです。お願いします。
- 授業料免除審査を年一回にしてほしい。
- 東千田キャンパスのマネジメント専攻に留学生が多いですが、申請してもらえる奨学金がすくなくないです。主には中国からの私費留学生で、アルバイトしながら全部自力で生活費と入学料、学費を支払う学生が多いです。学習や研究にも時間を取られているので、プレッシャをかけています。もしできれば、月に2万、3万でもいいですが、申請してもらえる奨学金の各額の人数を増やしていただきたいです。

#### 研究環境（研究室、図書館など）

- 僕は研究生で、正規生ではないのですが、研究科での勉強の場所がすごくほしいのです。勉強の意欲がとても強いのですが、図書館でしか勉強することができないことには、広島大学のようないい大学あるはずがないと思っています。正規生ではなくても、一応、学費をちゃんと払って、勉強するために行ったからです。もし、できれば、ご解決をお願いします。
- 西図書館が日曜日にでも利用できるならいいと思う。

#### 大学環境

- トイレ（図書館、法学部）がくさくてあまりにも汚くて涙が出ます。きれいにしてください。それが無理ならばおいをどうにかしていただけないでしょうか？

#### 修学（指導教員、授業）

- There is too little support and learning I can got from my seminar. Why? Actually the title of my division is "cultural and regional studies", but my supervisor seemingly more interested in the issue of climate change recently. Also, many of my labmates now make research in climate change because there is funding support from university. For me, because I don't like the issue of climate change and do not research about that, I feel that I am in wrong lab, wrong seminar, wrong supervisor.
- Thank you very much for giving me a chance express my idea. Actually, I have satisfied for being studying in HU. However, unfortunately, I don't have chance to select my academic advisor. Futhermore, my advisor asked me to change the topic which different from my skill and backgraound. Most importantly, he asked me to come to the lab everyday even in weekend and holiday, and he orders me to throw the gabbage in his room everytime. I am wondering, throwing the gabbage of my supervisor is also my task?

- 授業がむずかしいです。
- 留学生に対する英語の教育課程を開設してください。母国語は英語ではない人に助かります。そして、日本語の授業の単位を、院生の単位に交換
- 論文の日本語文法を見てくれる支援が欲しいです。先生はいつも論文を見ていただいているけど、先生に提出する前、細かい文法を見てくれる人が欲しいです。※連絡先の記載あり
- 日本語の会話の練習がしたいです。でもチャンスがありません。※連絡先の記載あり
- I am an undergraduate dentist from Bangladesh. I came here with the hope to achieve higher education. I thought I would be taught how to conduct research and experiments. My educational background was teachers/seniors teach and student learn. I am not accustomed to the teaching/learning methods of Hiroshima University where I am asked to solve most of problems/questions using the internet by myself. In that case I would rather do my research sitting at home on a computer. My wife and I have made many financial sacrifices to study in Hiroshima University. We did not receive any scholarship or tuition fee exemption. I would feel very bad if my sacrifices go to waste and I do not learn anything. ※連絡先の記載あり
- While most Japanese professors are very ethical and understanding, a few professors have a very serious problem with teaching ethic. These professors personally try to look down on other nations - especially, those developing nations - either in a direct or indirect way. I hope the university management can do something to change these few people, so that the international students from poor nations can better survive in Japan. Also, though the university performance is quite good, I hope there are more specialized courses and research courses conducted in English.

#### ネットワーク

- 学校のスタッフとか、先生とか、もしこれよりももっと積極的に学生たちとつながれば、よかったと思う。
- 広島大学の留学生への支援活動など非常に充実していて、満足しています。欲を言えば、授業以外の活動、地域との交流などの活動をもっと充実させていただければ嬉しく存じます。

#### 相談

- 広大で、日常生活の面における疑問がないですが、学習における悩みがたくさんあります。だから、専門学習の疑問に対する支援とか、相談とかに関する窓口を設置するほうが幸せだと思います。例えば、学習指導とか(指導教員が忙しいだから、相談していくと邪魔するかなと思います)
- I'm interested in contacting the health service center, for psychological/mental support; since many of my daily life activities are being affected by emotional difficulties. ※連絡先の記載あり

#### 交換留学

- My home university requires that I take and pass at least 5 Hiroshima University classes a semester. While I'm in Japan I want to focus on improving

only language ability, however, I feel too limited by the classes I am currently allowed to attend. More freedom would be nice.

- I want to know your response according to this survey and my opinions. At the last question, my opinion in most cases are neutral because I haven't started my research yet. Is it possible to get a full-time job in Japan for the foreign students?  
※連絡先の記載あり

#### その他

- より詳しい健康診断が受けたいです。
- Hiroshima University may have a data collection that can be used by students from various countries.
- 私の故郷は中国の内モンゴリアです。その部分の区域は小学校の授業年限は、ただ5年間です。それで、私の授業総年間は16年未満です。それで、私は4月から研究生として勉強してきて、9月では、大学院の試験に合格しましたが、来年の4月に大学院に進学できます。自分の原因ではなくて、この半年の時間、そして、半年の費用を支付しなければなりません。これは、ただ規定という原因で、ちょっと不合理と思われます。これから、またおおくの留学生は広大に来ると思います。できれば、この制度をちょっと変ることかできれば、うれしいと思います。ちょっと失礼ですけど、私の真音です。よろしくお願いいたします。※連絡先の記載あり
- 健康に関する相談が気やすくできる場所がほしいです。よろしくお願いいたします。
- I do not understand Hiroshima University HP. ※連絡先の記載あり



# 広島大学短期交換留学（HUSA）プログラム活動報告

堀田泰司・恒松直美

## 沿革

1993年に日米文化教育交流会議(The United States - Japan Conference on Cultural and Educational Interchange：通称カルコン CULCON)が開催され日米間の学生交流の促進が謳われ、政府支援の下、1995 - 96年に8国立大学が短期学生交流プログラムを開始した。広島大学短期交換留学プログラム（Hiroshima University Study Abroad Program, 以下HUSAプログラム）は、その8国立大学の1つとして、1996年に開始され、これまで積極的に学生交流を促進してきた。よって、当初の本学の短期交換留学プログラムの目的は、米国の高等教育機関との交流を中心とするものであった。しかし、プログラムは徐々に拡大し、現在は、世界中に点在する協定大学68校と交流を行っており、交換留学生受入れ・派遣留学を通して学生に異文化を体験させるだけでなく、留学しない本学のキャンパスで学習する学生に対しても異文化交流の機会を提供し、より多くの学生に国際教育の場を提供している。

教育内容としては、世界中の留学生が本学で学べるように英語による特別科目を開講し、より質の高い教育を提供するよう努力している。近年では、留学生に対し充実したインターンシップ科目を開講し、日本企業での実践的な経験を持つ機会も提供している。また、海外へ留学を希望する本学の在籍学生に対しては、説明会、留学フェア、文化交流会等の開催に加え、本学が積極的に参加している大学間コンソーシアムのINU(International Network of Universities)を活用し、アメリカとオーストラリアの教授によるオンライン・ビデオ講義を駆使した国際教養科目を開講し、本学の派遣留学予備軍の養成を目指している。

さらに、2000年より、コンソーシアム型学生交流の促進を目指しUMAP (University Mobility in Asia and Pacific)事業に参加し、留学した学生の単位互換をより公平、且つ正確に行うためUMAPが開発したUCTS (UMAP単位互換方式、UMAP Credit Transfer Scheme)を採用し、全協定大学に対する本学の教育プログラムの透明性と互換性を高めている。現在は、UMAPが新たに開発したUSCO (UMAP Student Connection Online)事業にも積極的に参加し、アジア・太平洋諸国の学生交流促進に貢献している。

運営組織としては、HUSAプログラム開始当初から全学組織である短期留学交流プログラム部会が全体を統括し、交換留学生の選考、協定大学との調整・交渉、英語による国際教育プログラムの拡充等について検討している。部会は各部局代表委員並びにその他委員により構成されている。また、プログラムを直接、管理運営する組織としては、国際セン

ターの国際教育部門の教員 2 名及び留学交流担当の職員がその主たる業務を担っている。

## 1. 受け入れプログラムの概要

- ・ 受け入れ期間：一学期または一学年
- ・ 募集人員：約 40 名
- ・ 募集方法：学生交流協定を締結している（締結する）各国の大学に対し募集要項を配布し、公募する
- ・ 応募資格：
  - (1) 本学との間に学生交流協定を締結している大学の学生または学生交流について双方が合意した書簡がある大学の学生
  - (2) 原則として自国の大学の正規課程 3 年次の学部学生（協定校によっては、大学院生も含む）
  - (3) 学業成績が優秀で日本留学に熱意を持つ者
  - (4) 非英語圏から応募する学生にあつては英語又は日本語による授業を履修できるのに必要な英語力を持つ者
- ・ 選考方法：短期留学交流プログラム部会において、協定大学の推薦・UMAP 学習計画書・プログラム参加目的を参考にし、書類選考を行う。
- ・ 学生の身分と受け入れ方法：学生は、国際センターで統括し、学部生は「特別聴講学生」、院生は「特別研究学生」又は「特別聴講学生」（広島大学学生交流規定）として受け入れる。
- ・ 授業料等の不徴収：交流協定に基づき、特別聴講学生として受け入れるので、授業料等を徴収しない（なお授業料については、協定において「相互不徴収」について合意する必要がある）。
- ・ カリキュラム：授業科目は、3 つの形態から構成されている。「特設科目」(Special Course)は、HUSA プログラムの留学生のために特別に開設された主に英語による授業であり、「常設科目」(Integrated Course)は、既に学部で開設されていたものに、HUSA プログラムの学生が登録した場合、英語による支援を行う授業、または日本人学生向けに易しい英語で授業を行うものであり、日本人学生と共に履修する。第 3 に「日本語関係科目」は主に教育学部が開設し、国際センターが実施している日本語（初級・中級・上級）及び日本事情の科目である。さらに、日本語レベルが上級の学生は、各学部で正規学生用に開設されている授業を受講することができる。授業科目は各学部が開設しているものであり、その統括は各学部でおこなわれている。以下が、2012-2013 年度に開設された授業科目一覧表である。

2012-2013 度 (2012 年 10 月～2013 年 7 月) 授業科目一覧

2012 度秋学期

1. 特設科目【Special Course】

授業科目名	単位数	備考
Current and Future States of the Researches in the Fisheries Science	2 単位	生物生産学部
Family Life in Japan	2 単位	教育学部
Globalization Support Internship I : Career Theory and Practice	2 単位	教育学部
Globalization Support Internship II : Practicum *	2 単位	教育学部
Introduction to Radiation in the Environment	2 単位	工学部
Japanese Art and Global Education	2 単位	教育学部
Special Subject III (Japanese Economy)	2 単位	経済学部
Japanese Society and Gender Issues	2 単位	教育学部
Japanese Society and Lifestyles B	2 単位	総合科学部
Zen in Everyday Life	2 単位	総合科学部
The Japanese Culture and Education	2 単位	教育学部

\*通年開講

2. 常設科目【Integrated Course】

授業科目名	単位数	備考
Introduction to Phonetics and Phonology (音声学・音韻論入門)	2 単位	総合科学部
Introduction to the Theory of Inter-Cultural Communication (異文化コミュニケーション論入門)	2 単位	総合科学部
Oral and Dental Science: Dietary Life and General Health (口腔の科学: 食生活と全身の健康)	2 単位	教養教育
Seminar in English Debate (英語ディベート演習)	2 単位	総合科学部
Laboratory in Physical Science B (物理科学実験 B)	2 単位	理学部

2013 度春学期

1. 特設科目【Special Course】

授業科目名	単位数	備考
Introduction to Animal Production Science	2 単位	生物生産学部
Special Subject IV (Business Economics)	2 単位	経済学部
Politics and Foreign Relations of Japan	2 単位	法学部
Cross-Cultural Studies on Education	2 単位	教育学部
Frontiers of Material Science	2 単位	総合科学部
Japanese Society and Lifestyles A	2 単位	総合科学部
Recent Developments in Biological Sciences	2 単位	理学部
Modern Chemistry	2 単位	理学部
Introduction to Advanced and Integrated Science	2 単位	理学部
Development and International Education	2 単位	教育学部

Japanese Modern Society	2 単位	教育学部
Globalization Support Internship II :Practicum *	2 単位	教育学部

## 2. 常設科目【Integrated Course】

授業科目名	単位数	備考
Comparative and Contrastive Study of Language (言語の比較と対照研究)	2 単位	教育学部
CMOS Logic Circuit Design (CMOS 論理回路設計)	2 単位	工学部
Introduction to Hydrology (水循環論)	2 単位	総合科学部
Psycholinguistics (心理言語学)	2 単位	総合科学部
Introduction to Linguistics (言語学入門)	2 単位	総合科学部
English Grammar (英文法)	2 単位	文学部
International Cooperation in Medicine (専門教養・国際協力論)	2 単位	医学部
Structure of the Human Body (人体構造学 3.個体と器官の発生)	2 単位	医学部
Language in Society (社会と言語)	2 単位	総合科学部
INU Collaborated Special Lecture B (INU 特別協力講義 B)	2 単位	教養教育

## 日本語・日本事情関係科目

授業科目名	単位数	開講学期	備考
日本語初級 IA	2 単位	秋学期	国際センター
日本語初級 IB	2 単位	秋学期	国際センター
日本語初級 IC	2 単位	秋学期	国際センター
日本語初級 ID	2 単位	秋学期	国際センター
日本語初級 IIA	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本語初級 IIB	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本語初級 IIC	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本語中級 IA	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本語中級 IB	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本語中級 IC	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本語中級 IIA	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本語中級 IIB	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本語中級 IIC	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本語聴解特別演習 A	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本語表現特別演習 A	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本語古文特別演習 A	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本語上級 B (リスニング)	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本語上級 B (映画)	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本語上級 B (古典)	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本語上級 B (語彙)	2 単位	秋・春学期	国際センター

日本語上級 B (表現)	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本語上級 B (分析)	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本社会・文化 A	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本社会と文化 B	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本の思想・哲学 A	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本思想と哲学 B	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本の地域・文化 A	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本の地域・文化 B	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本の映像文化史 A	2 単位	秋・春学期	国際センター

・受け入れ体制の整備：(1) 日本における様々な体験学習の場を提供する。(2) 学生宿舎(日本人・留学生混在型)を用意する。(3) 日本人学生チューターを事前に配置し、受け入れ開始と同時に留学生を支援する。(4) 日本語学習の補助として日本人学生の会話パートナーを紹介する。(5) 入国時身元保証人としては、各指導教官に依頼せず、機関保障(広島大学)とする。(6) 本学が提供する教育の質を保証する活動の一環とし、成績証明書に UMAP の単位互換方式である UCTS を導入し、単位互換を促進する。

## II. 2012-2013 年度 HUSA プログラム留学生受け入れ状況

2012-2013 年度は、28 名の留学生を受け入れた(2011 年度 33 名)。期間は、殆どの学生が1年間の滞在を希望しており、男女別で見ると 2012-2013 年度 HUSA プログラムに参加した学生数は、男子学生 13 名、女子学生 15 名であった。

## III. 2012-2013 年度 HUSA プログラム受け入れに関する業務及び活動内容

**申請と選考**：2012 年度募集要項は、2012 年 1 月に各協定大学へ配布され、3 月末に各大学から参加希望者が推薦された。推薦された学生について、4 月に本学の選考委員会によって HUSA プログラム参加者が正式決定された。今年度も、受け入れ留学生の申請において、UMAP 学習計画書を申請書類の中に組み込み、選考や奨学金の推薦の参考資料とした。2004 年度の申請から、受け入れ留学生のオンライン登録システムを導入し、2012 年度も継続してオンライン登録を使用した。オンライン登録により、学生が直接インターネットから情報を入力し、受け入れ留学生のデータベースが作成できるようになった。システムも毎年整備し、より効率的な形でオンライン登録が可能となっている。HUSA 受け入れ留学生が増加していくことが予測される中、今後も学生のデータベース作成及び管理にオンライン登録を活用していきたい。

**渡日前の情報の提供**：渡日前のオリエンテーションと日本での生活の準備を兼ねて、広島

大学及び留学生生活に関する情報を網羅した英語版の「短期交換留学生用手引き (Information for New Students)」を改訂して各学生に送付した。また、ホームページで HUSA プログラム、広島大学、日本での生活について詳細な情報を提供するとともに、「よくある質問」を掲載し留学生がよく疑問に思う事項について説明した。学生の個人的な質問等には、電子メール等を活用し直接個々のケースに対応した。

**チューターオリエンテーション**：日本人学生チューターに対し、今年度も事前に2回の説明会を行った。第1回目は、チューターとしての全般的な支援活動の内容について説明し、第2回目は、留学生が来日する直前に、渡日後1週間の事務手続き並びに寮へ入居するまでの具体的な支援活動についてオリエンテーションを行った。

**見学・体験学習**：2012年度秋学期も例年のように10月に呉市吉浦秋大祭見学を行い日本文化体験学習の機会を提供した。

**授業科目の開設状況**：短期プログラム用の開設科目は、毎年、各学部で審議され、今年度も、特設科目・常設科目・日本語教育が短期交換留学生のために開講された。日本語教育科目は、短期交換留学プログラム用の特設科目となっている。2003年度から初級・中級を特設科目とし、上級の科目は研修生や正規留学生及び研究生と合同で受講することになり、幅広い充実した日本語カリキュラムが組まれている。

#### **インターンシップ**：

2003年度より春学期に「HUSA インターンシップ」コースを開設して以来、毎年インターンとして地域企業に2週間派遣してきた。2005年度よりインターンシップ派遣前に事前研修を開始し、インターンシップの準備体制を充実させてきた。2010年度前期より企業体験者を招聘して全学公開セミナーを開き、留学生が本学学生と共に国際的視野から将来を考える場を創出した。また、2010年度後期からは企業体験者講話に基づいたPBL（課題発見解決型学習法）による留学生と本学学生の協同学習も導入し、学生がより自主的に学びを高め合い大学教育とグローバル社会をつなげられる場を作っている。地域との連携の中で大学の国際化を促進し、留学生のキャリア教育及び日本での就業体験をさらに充実させ、ホリスティックに短期交換留学生の教育を充実化させていくことを目指している。

2012年度秋学期からは、「グローバル化インターンシップⅠ：キャリア理論と実践」・「グローバル化支援インターンシップⅡ：実習」と題して新しく「学生主導型」の交換留学生向けインターンシップの授業を開講した。2012年度春学期は、新しい授業の開講に向けて、グローバル社会における産官学連携の新しい方策を模索していくためのパイロット・スタ

ディを行った。「派遣型」から「学生主導型」へと新しくパラダイム転換を図った「グローバル化支援インターンシップ」では、大学の国際教育と地域社会の相互支援を目指し、地域企業と連携した「グローバル化支援研究プロジェクト」で留学生の視点を生かし市場調査に取り組んでいる。また、江田島市市役所と連携し、「国際交流企画コーディネーター」インターンとして、2013年度4月に実施予定の国際交流歴史ツアーを企画している。留学生インターンは地域社会と連携して仕事に従事し、学術知を実践知と結びつける学生主導型インターンシップに挑戦した。

2012年11月には広島大学附属高校が取り組む「スーパーサイエンスハイスクール」のカリキュラムである「科学英語表現」の英語合宿にアメリカ及びイタリア出身のHUSA留学生が担当教員とともに参加し、「スクール・インターン」として日本留学の体験や日本の大学と自国の大学との違いについてプレゼンテーションを行った。また、2013年1月には、韓国の日本語教師海外研修の一環として、日本文化事情の講義「日本文化と教育交流」を担当教員とHUSA留学生（インターン）が担当した。担当教員は「大学の国際教育とグローバル化支援リーダー育成」と題して講義し、中国と台湾出身のHUSA留学生は「私と日本への交換留学」と題してプレゼンテーションを行った。

#### 文化交流支援活動：

- 9月に来日した際に行うHUSAプログラム・オリエンテーションは2006年度より2日間に亘って行っており、本学で勉学するにあたっての心構えや事務手続きなど全般に渡る指導を行っている。異文化適応についての指導や、HUSAプログラム参加留学生間の交流及び広島大学学生との交流並びに先輩からのアドバイスも盛り込み、学生間の交流を促進し、本学での生活に早く慣れるよう企画した。
- 国際センターで運営する国際交流ボランティア制度を利用し、日本人学生の会話パートナーを短期交換留学生に紹介する会合を開き、交流を促進した。また、日本人チューターを、国際交流ボランティア、広島大学電子掲示板を通して募集し、国際交流に関心の高い学生をチューターとして採用した。

**地域貢献：**2003年度より、東広島商工会議所より、国際理解のための留学生の母国についての講話を依頼されている。2003年度はフランス・韓国、2004年度はアメリカ・カナダ・ギリシャ、2005年度にはドイツ、2006年度にはタイからのHUSA留学生が商工会議所を訪問し、母国の文化・習慣や日本との相違について話した。担当教員も、2011年度に東広島商工会議所文化交流委員会において、「広島大学の国際化と産学連携：短期交換留学生インターンシップ」と題して講話を行った。また、HUSA留学生が、地域の小学校・中学校・高校を訪れ、国際交流を行ってきた。

**HUSA 広報活動**：HUSA ホームページにはプログラムの概要、申請方法、スタッフ紹介、HUSA に関するニュース、開講コース案内、インターンシップと産学連携、奨学金・寮・大学施設についての情報、国際交流行事案内、HUSA パンフレット、広島大学及び地域についての情報など、留学に関わる情報が網羅されている。サイトを常に更新し、HUSA プログラムについての最新情報を提供している。また担当教員の研究ホームページにおいて HUSA プログラムに関する授業及び研究を詳細に紹介している。

**HUSA プログラム評価**：プログラム改善に役立てるため、毎学期、HUSA プログラム全体評価、各コース評価、学生チューター評価を行っている。学生にアンケート用紙を配布し、回収し、結果をまとめ、プログラム改善に役立っている。アンケート調査結果は短期留学交流プログラム部会において報告し改善のための示唆を得ている。

#### IV. 2012-2013 年度 HUSA プログラム派遣留学に関する活動

本学からの留学生派遣事業に関しては、本年度も 2012 年 1 月初旬に応募者の選考試験を行い、中旬には短期留学交流プログラム部会で選考を行った。2-3 月には、協定大学への申請手続きを行い、5 月から 10 月に派遣した。オセアニアへは、2013 年の 1-2 月に派遣した。以下は、派遣学生の募集と選考に関する概要である。

##### 1. 制度の趣旨：

広島大学短期交換留学(派遣)プログラムは、本学の学部生・大学院生が在籍しつつ、学生交流協定に基づいて、海外の協定大学へ 1 学期または概ね 1 年間留学し、専門教育または外国語教育等を受けて単位を取得するものである。本学で単位互換することにより、海外に留学しても通常の修学年限内に卒業できることを目指した制度である。本プログラムは、1996 年後期から開始され、現在アメリカ、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、インドネシア、シンガポール、タイ、フィリピン、マレーシア、韓国、中国、トルコ、ポーランド、ロシア、オーストリア、ニュージーランド、イギリス、オランダ、スウェーデン、ドイツ、フィンランド、フランス等の 67 大学からの交換学生を受入れ、同時にそれらの大学へ、本学に在籍する学生を派遣している。また、海外の高等教育機関によって運営されている USAC や UMAP 等のコンソーシアム型の学生交流に参加することで、本学からの派遣国並びに派遣対象大学は拡大し、過去においても本学が独自に協定を持たないガーナ、メキシコ、コスタリカ、イタリア、フランス、スペイン等へも派遣している。

##### 2. 特徴：



- ・ **授業料不徴収**：本プログラムで留学する学生は、協定大学では授業料を支払う必要がない。
- ・ **奨学金**：日本学生支援機構による留学生交流支援制度、並びに佐藤陽国際奨学財団海外派遣奨学制度等の奨学金が一部派遣学生に支給されている。
- ・ **単位互換制度**：全協定大学の単位制度に対し、UMAPのUCTSを活用することにより、公平、且つ正確な単位互換を行っている。また、UMAP学習計画書を実施することにより、派遣学生・指導教員・協定大学が、学生の履修計画並びに単位互換に関し、事前に相互に承諾を得ることができ、交換留学の実質的な活動を円滑に進めることができる。
- ・ **現地コーディネーターのアシスタント**：協定大学の国際室並びに関係部局における本学との交流事業をコーディネートする事務職員と連携し、派遣学生の留学生生活を支援している。
- ・ **短期交換留学生との留学前の交流及び留学後の現地での交流**：留学前に留学先から本学に留学している学生と交流会を持つことにより、現地での生活の状況、授業やクラブ活動等の学生生活に関する最新の情報等を得ることができる。また、留学後は、帰国した留学生と現地での交友関係を構築しやすい。

### 3. 出願書類

①派遣申請書

②留学計画書

③外国語検定試験の成績表

(英語・中国語・ドイツ語・フランス語の検定試験については、それぞれの検定試験に一定の基準を設け評価している)

④学業成績証明書

### 4. 出願書類提出先及び締切り

各学部等派遣留学担当係へ例年11月末までに提出する。

### 5. 面接（口述）試験

学生から提出された申請書類の留学計画を基に例年1月の第1週に面接試験を行っている。試験は、広島大学短期留学交流プログラム部会の委員による1グループ3名程度の審査員によって実施される。審査員が学生の留学計画、異文化適応能力等についてそれぞれ5段階評価をつけ、その平均点を最終審査会の1つの評価指標としている。

### 6. 選考委員会の実施

例年1月下旬に、広島大学短期留学交流プログラム部会において、派遣留学生の選考を実施している。主に学生の留学志望校、語学能力、面接試験結果、学業成績を考慮し、可

可能な限り多くの学生を推薦できるよう配慮し選考及び推薦を行っている。

## V. 2012-2013 年度 HUSA 留学生派遣事業の実績

2012 年度の短期交換留学生派遣に関しては、31 名を推薦し、アメリカ、カナダ、イギリス、オーストラリア、ドイツ、フランス、フィンランド、ノルウェー、オーストラリア、ニュージーランド、中国、韓国、マレーシア、フィリピンの 21 大学と 1 コンソーシアム・プログラムへ派遣した。1 カ国に複数の協定校がある場合、アメリカでは 4 大学、イギリス 2 校、ドイツ 3 校、韓国 3 大学へ派遣している。派遣国は、欧米だけでなく、アジア諸国への派遣も拡大しているが、依然として、全協定大学との交流バランスを見ると、毎年、受入れ超過傾向にあり、今後もアジアだけでなく、欧州諸国への派遣留学も促進する必要がある。また、本学では、協定大学が開講する超短期（1 学期未満）プログラムへの留学も選考、派遣しており、2012 年度は、5 大学（台湾、韓国 3 校、ロシア）へ合計 13 名を派遣した。派遣規模は、年々拡大しており、通常の 1 学期または 1 年間の派遣では、受入れ超過傾向の協定大学に派遣できるので、今後も継続してこうした取り組みを拡大していく計画である。

## VI. HUSA 留学生派遣事業の活動状況

**広報活動：**24 年度は、毎年 5-6 月に実施する留学フェア並びに説明会、そして担当教職員による交換留学に関するメールや面談による相談に加え、多くの一般学生が集うラウンジに留学情報コーナー及び学生アシスタントによる留学相談デスクを設置した。その結果、協定大学の紹介や留学までの段階的な留学準備の仕方について興味のある学生は、いつでも情報収集し、留学相談できるようになった。

**留学前の情報提供と留学計画の促進：**例年、派遣が決定した本学の学生に対し 2 度（4 月と 6 月）に渡るオリエンテーションを実施しており、留学に関する一般的な情報と共に、協定校から来ている留学生との交流の場を提供している。その学生間の交流は留学後も続き、協定校においても継続的な交流活動が行われている。また、留学前に指導教員及び学部と単位互換について確認する目的で、UMAP 学習計画書を 6 月の第 2 回目のオリエンテーションで配布し、留学前までに提出するよう要求している。

**INU 特別協力講義：**24 年度も、派遣留学を促進するため、すでに 2006 年より開講してきた INU 特別協力講義並びに集中講義を実施した。一般の教養科目として開講されている INU 特別協力講義は、INU ネットワークを利用し、アメリカとオーストラリアの協定大学の教員によるビデオ講義を活用した WebCT 上で授業を展開するオンライン教育科目である。

教育交流部門の教員がそのうちの1科目（特別講義と集中講義合わせて1セットの講義）を担当し、「アメリカの文化と社会」と題し、アメリカ人講師のビデオ講義を基に授業を行った。

## VII. その他の主な活動

**UMAP 活動への貢献：**本学は、学外での活動としてアジア太平洋諸国の政府並びに高等教育機関によって運営されている UMAP（アジア太平洋学生交流機構）の学生交流促進事業に積極的に参加してきた。2012 年度 10 月に開催された UMAP 国際理事会において、UMAP 国際事務局及び参加国に対し、アジアの単位互換に関する研究成果をもとに考案されたアジア地域共通の単位互換制度の概念を紹介した。本研究は 2010 年度に文部科学省から本学に委託されたものである。UMAP において新たな UCTS 概念としてこの単位互換制度の概念を導入することを提案した。

新たな概念とは、以下の通りである。

---

1 UCTS = 38～48 学修時間数とする。また、その学修時間数には、13～16 時間の授業時間数 (academic hour) が含まれる。

---

この概念を UMAP 参加国が受入れ、活用した場合、アジア地域の多くの高等教育機関では、相互の単位の価値を等価と見なし、細かい換算を必要としない単位互換が可能となる。そして、将来的には、米国、欧州の ECTS、英国の CATS による単位制度等とも簡単な互換が可能になる。

## 海外からの表敬訪問・海外及び国内の大学訪問及び会議への参加等

### 2012 年

- 4 月 \* University of Manchester (イギリス) School of Languages, Linguistics and Cultures より表敬訪問
- \* University of Minnesota (アメリカ) Learning Abroad Center より表敬訪問
- 5 月 \* University of Auckland (ニュージーランド) Associate Dean 表敬訪問
- 6 月 \* Global Internship Conference: Clarity, Innovation, Collaboration (University of Berkeley, USA) 参加 (恒松)
- 7 月 \* 東南アジア比較教育学会 (CESA) でアジアの単位互換について講演 (堀田)
- \* タイ高等教育局主催の UMAP ワークショップで単位互換について講演 (堀田)
- 8 月 \* UMAP 国内委員会会議出席
- 9 月 \* ベトナム・カンボジア政府主催のアジア共通単位互換制度に関する講演 (堀田)
- \* 東南アジア教育大臣機構 (SEAMEO) 高等教育研究所 (RIHED) の国際比較研究に関する第1回国際会議 (バンコク) 出席 (堀田)

- 10月 \* UMAP 国際理事会（台湾）出席（堀田） - UCTS 概念の活用に関する提案
- 11月 \* Tomsk State Pedagogical University 学長 表敬訪問
- \* 東南アジア教育大臣機構（SEAMEO）高等教育研究所（RIHED）による国際比較研究の調査報告会並びに第2回会議（バンコク）出席（堀田）
- \* 広島大学附属高校スーパーサイエンス・ハイスクール「科学英語表現」英語合宿講師（恒松）
- \* オレンブルグ大学（ロシア）より表敬訪問
- 12月 \* Cardiff University（イギリス）より表敬訪問

## 2013年

- 1月 \* UMAP国内委員会会議出席（堀田）
- \* 京畿道中等日本語教師海外研修 日本文化事情「日本文化と教育交流」講義「大学の国際教育とグローバル化支援リーダー育成」（ひろしま国際センター主催）（恒松）
- 2月 \* アジア共通単位互換制度に関するワークショップで講演（堀田）  
（ブルネイ政府主催）
- \* ASEM高等教育専門家会議（ベルリン）に出席（堀田）
- 3月 \* アジア共通単位互換制度に関するワークショップで講演（堀田）  
（インド政府主催）
- \* 広島大学STARTプログラム引率（アメリカ・James Madison University）（堀田）
- \* University of Hawaii, Manoa 国際部（アメリカ）より表敬訪問
- \* University of Sao Paulo 国際部（ブラジル）より表敬訪問

## 研究・その他の活動

### 1. 研究論文・著書

- 恒松直美 「交換留学生向け『グローバル化支援インターンシップ』－留学生の異文化性と日本社会の地域特殊性－」、『広島大学国際センター紀要』第3号, 2013年, pp.1-14
- 恒松直美 「交換留学生向け『グローバル化支援インターンシップ』授業の運営方法の転換と期待マネジメント」『広島大学留学生教育』第17号, 2013年, pp. 1-15
- 恒松直美 「短期交換留学生の日本留学による意識変容」『留学生教育』第17号, 2012, pp.51-60
- 中川正弘 「Roland Barthes : *Le Degré zéro de l'écriture* – 日本語翻訳と間言語の地平 –」, 『広島大学フランス文学研究』, 第31号, 2012年, pp. 44-64 (広島大学図書館リポジトリ登録版には補遺15頁付)
- 中矢礼美 「連載第4回世界の文化～異文化理解のはじめ～」, 2012年広報あきたかた11月号掲載
- 中矢礼美 「インドネシア・アンボンの成り立ちと教育―地域教育史から読み解く「地域の課題」―」中国四国教育学会編『教育学研究紀要』第58巻, 2012年, 518-523頁
- 中矢礼美・梅村 「海外体験学習における学びの質的变化を促すコンピテンシー評価の有効性」広島大学国際センター編『広島大学国際センター紀要』第3号, 2013年, 15-28頁
- 深見兼孝 「現代朝鮮語の‘-lo toyta’について」『ニダバ』第42号, 2013年3月, pp.70-79
- 堀田泰司 「第9章、ヨーロッパの高等教育の地域統合と東アジア」: p.231-255, 黒田一雄「アジアの高等教育ガバナンス」(勁草書房、2013年2月: 337頁)
- 堀田泰司 「東南アジアにおける国境を超える高等教育の現状と課題に係る文部科学省・JICA 合同調査最終報告書」(2012年3月) 国際協力機構 (JICA)、研究代表、アジア科学教育経済発展機構 (ASIA-SEED) [人間-JR-12-021], 178頁

## 2. 学会発表

恒松直美「大学の国際教育と社会の相互支援を目指した短期交換留学生インターンシップ  
－『グローバル化支援インターンシップ』パイロット・スタディ－」, 日本高等教育学会 第15回大会, 東京大学, 2012年6月2日

恒松直美「交換留学生向け『グローバル化支援インターンシップ・コース』と省察的实践」,  
日本総合学会 2012年度春季大会, 広島大学-東千田キャンパス, 2012年6月30日

恒松直美「交換留学生向け『グローバル化支援インターンシップ』授業における地域社会との相互支援とグローバル化支援リーダー育成」, 留学生教育学会・短期留学特別プログラム分科会第7回会合, 京都大学東京オフィス, 2012年11月9日

中矢礼美「インドネシア・アンボンにおける『まち』と教育の変遷」, 日本比較教育学会第48回ラウンドテーブル『マレー世界の比較教育－地域研究を町から考える－』(九州大学), 2012年6月15日

中矢礼美「インドネシア・アンボンの成り立ちと教育－地域教育史から読み解く「地域の課題」－」, 中国四国教育学会大会 (山口大学), 2012年11月11日

深見兼孝「日本語のタツと韓国語の seta」, 2012年度日本総合学会春季大会, 広島大学(東千田キャンパス), 2012年6月30日

深見兼孝「動詞スワルについて：韓国語の았다と対照して」, 2012年度韓国日本語学会秋季大会, HANBAT 大学校 (韓国), 2012年9月15日

Hotta, T., "Credit Transfer System in non-MGS countries + Thailand: Current CTS use in Japanese Universities" The SEAMEO-RIHED Agenda Workshop 1 "Harmonization and Networking in Higher Education: Building a Common Credit Transfer System for GMS and beyond" SEAMEO-RIHED, Bangkok, Thailand, September 28, 2012 (招待論文発表)

Hotta, T., "Current Credit Transfer System in Japanese Universities" The SEAMEO-RIHED Agenda Workshop 2 "Harmonization and Networking in Higher Education: Building a Common Credit Transfer System for GMS and beyond" SEAMEO-RIHED, Bangkok, Thailand, November 5, 2012 (招待論文発表)

梅宮直樹・米澤彰純・森利枝・堀田泰司・黒田一雄・北村友人・太田浩「東南アジアの国際共同高等教育プログラムに関する調査研究」第48回日本比較教育学会,九州大学,2012年6月25日

### 3. 学術研究補助金

恒松直美 研究代表者(平成21-23年度)科学研究費補助金,基盤研究(C)「グローバル社会におけるパラダイム・シフト:日本の高等教育とキャリアにおける意識変容」  
研究課題番号:21530881

深見兼孝 研究分担者(平成23-25年度)科学研究費補助金,基盤研究(C)「説話の超域文化性に関する基礎的研究」研究課題番号:23520434(研究代表者:佐藤利行)

本田義央 研究分担者(平成23-25年度)科学研究費補助金,基盤研究(C)「説話の超域文化性に関する基礎的研究」研究課題番号:23520434(研究代表者:佐藤利行)

堀田泰司 研究代表者(平成24-26年度)科学研究費補助金,基盤研究(B)(海外学術調査)「アジア高等教育における透過性のある教育フレームワークの構築に向けた比較研究」課題番号:24402045

堀田泰司 研究分担者(平成24年度)独立行政法人国際協力機構「アジア地域東南アジアにおける国境を超える高等教育の現状と課題に係る調査」(代表:アジア科学教育経済発展機構)

### 4. その他の活動

#### A. 地域貢献、社会貢献

恒松直美 広島大学高等教育開発センター 学内併任研究員

恒松直美 広島大学附属高等学校スーパーサイエンス・ハイスクール運営指導委員

中矢礼美 The ASIA-PACIFIC EDUCATION RESEARCHER(De La Salle University) 編集委員

中矢礼美 JICA 研修コースリーダー

研修コース名:平和のための教育-相互理解の促進をとおして-

研修期間:平成24年8月26日~平成24年9月27日

堀田泰司 UMAP 日本国内委員会専門委員

UMAP 国際事務局、テクニカル・アドバイザー

## B. 学会活動

- 恒松直美 日本総合学会 監事  
恒松直美 日本比較教育学会 常任幹事  
中川正弘 日本フランス文学フランス語学会 中国・四国支部機関誌編集委員長  
中川正弘 広島大学フランス文学研究会 参与  
中矢礼美 日本比較教育学会 常任幹事  
中矢礼美 留学生教育学会編『留学生教育』 論文査読  
中矢礼美 中国四国教育学会編『教育研究ジャーナル』 論文査読  
深見兼孝 西日本言語学会 運営委員  
深見兼孝 日本総合学会 理事  
深見兼孝 韓国学研究会 会長

## C. 講演・ワークショップ等

- 恒松直美 「大学の国際教育とグローバル化支援リーダー育成」, 平成 24 年度京畿道中等日本語教師海外研修 (ひろしま国際センター主催), 日本文化事情 2 講義「日本文化と教育交流」, 広島大学, 2013 年 1 月 16 日
- 恒松直美 広島大学附属高校スーパーサイエンス・ハイスクール「科学表現」英語合宿におけるディベート指導
- Hotta, T., 「Dawn of Asian Mobility Zone in Higher Education: From ECTS to Asian Common Credit System」 UMAP 国際理事会『2012 UMAP International Conference: Cross-Cultural Exchange in Global Education』 UMAP 国際理事会主催、天主教輔仁大學 (台北) 2012 年 10 月 23 日